

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

## 平成29年度事業報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

### ◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

#### (1) 国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業
- ・ 千葉 君津市、木更津市での植樹地メンテナンス事業
- ・ 埼玉 飯能市での森林整備事業
- ・ 奈良 吉野町での間伐／PAL植樹事業
- ・ 奈良 吉野町でのふるさとの森再生事業
- ・ 広島 竹原市での植樹メンテナンス事業
- ・ 広島 呉市での植樹事業
- ・ 間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト)
- ・ 生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人CEPAジャパン事務局)

#### (2) 海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの河岸林保全事業

#### (3) バガス(非木材紙)普及事業

- ・ バガス普及啓発事業(大学学園祭へのモールド導入)

#### (4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)
- ・ 分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁)
- ・ 廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁)

### ◆2017年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

## 1) 国内森林保全事業

### 【岩手・西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

岩手県和賀郡西和賀町にあるザ・パックフォレスト活動の第 1 号地では、今年も地元の「西和賀森づくり隊」のメンバー(写真)を中心に、植樹地の下刈りを行なった。今年はお盆の 8 月 15 日(火)午前 10 時から、雑草が伸び放題になっている植樹地や、ザ・パックフォレストの看板周辺を中心に、下刈りを実施した。

西和賀森づくり隊のメンバーは下の写真前列中央の新田さん(隊長)は既に 80 歳に近く、他のメンバーも 70 代に入っているが、皆さん平素から野良仕事をしているだけに体力もあり元気だ。引き続き年 1 回ではあるが、お世話になった地元の方々と交流しながら、植樹地の整備、維持に努めたい。



西和賀森づくり隊メンバーと高橋会長(写真後列左)



雑草が生い茂った植樹地



ザ・パックフォレストの看板回りも雑草を刈り取った



植栽から 17 年ほどが経過し、木陰ができる林に。



【千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」、

君津市「豊果(ゆたか)の森」&「四季彩(しきさい)の森」の育林活動】

◆千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」

7月15日、EFFのスタッフ2名+ボランティア3名の手で、刈り払い機5台、ノコギリ、剪定バサミを使用して下刈と苗木のメンテナンス作業を実施した。看板を探しても見つからないほどの丈の高い草が密集していた。手前方面は草丈も短いため、刈払機を使用して進んだ。中央部から奥と斜面上部は丈3-4mの灌木のため刈払機での作業は無理だったため、苗木の周辺部分を剪定鋏とノコギリで刈り、陽が当たるようにした。条件の良い木は5-6m、逆に陽の当たらないことはヒョロヒョロで、その差は仰天に値する。昼食後も同じ作業を継続し、手前部は苗木を残して刈り終える。その他は1本ずつメンテナンスしたが、遠目には藪にしか見えない。

一人がアシナガバチに眉間を刺された。すぐにポイズンリムーバーで毒を吸い取り軟膏を塗る。処置が早かったので翌日は腫れも痛みもなかったとの報告を受けた。一人(美濃部)がマダニに喰いつかれ、川崎の病院に行った。蜂対策、マダニ対策ともに今後の重要な検討課題としていきたい。



(作業開始直後)



(作業終了後)

◆君津市豊果(ゆたか)の森

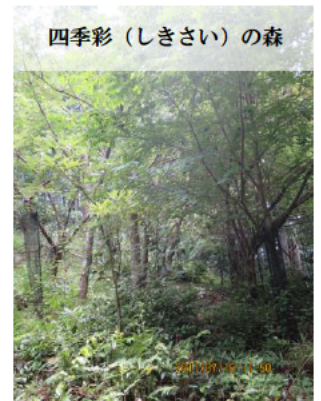
地主の岩田さんによると、梅が豊作だったという。プラムも収穫してくれていて、おいしくいただいた。プラムの実には4-5カ所、岩田さんが袋を被せてあったが、まだ青かったので採らなかった。昨年の秋に刈ったせいか、ススキの伸びが低く刈りやすく、苗木のあるところの草(ススキ)は全て刈り払った。斜面部は、2年前に伐ったアブラギリの萌芽更新(ヒコバエ)なので丈は50cm程度の低木だったため、剪定鋏で伐った。



生育状況、山側部と斜面部は生長し柿の実が多数ついている。姫リンゴもしかり。道側手前部の桃は全滅で、奥道側の柿の木は生育が悪い。土壌が肥沃じゃないことと、ススキとアブラギリに負けたためと思われる。6月には梅狩り、10-11月には柿狩りが可能と思われる。今後も草(ススキ)刈りを継続していき、実の管理(何がいつ実るのかを明らかに)をしていきたい。

◆君津市四季彩(しきさい)の森

看板から続く道の草を刈り、アブラギリはチェーンソーで伐り倒した。四季彩の森の苗木は、サプリガードより太い幹になりつつあり、サプリが食い込まないようにまき直し作業が必要かと思われる。次年度以降の作業案として検討していきたい。





## 【埼玉・飯能市での森林整備事業】

『里地・平地林再生事業の実施に関する協定書』に基づき実施している埼玉県飯能市での保全活動も6年目を迎えた。今年もサイタ工業株式会社からの協賛に加え、埼玉県助成金でご支援いただき【草刈】・【間伐】、そして当初は植樹をする予定であったが現地視察の結果【2013・2014 年植樹地整備】に切り替え活動を行った。

### 1. 草刈(8月)

8月19日(土)苗木の生育補助のため長柄鎌等を使い、有志7名で昨年3月に植樹した場所を中心に草刈を行った。途中、スタッフが蜂に刺される事態が発生したが、救急用具で適切に対処し事なきをえて、滝のような汗をかきながら約2時間作業して活動を終えた。前年度など一部作業しきれなかったところは、外部委託して整備を行った。



### 2. 間伐(11月)

11月4日(土)晴天の下、総勢22名で間伐体験を実施した。今回も参加者うち約半数のみなさんが初めての間伐体験となったが、フォレスト萩原スタッフはじめ丁寧な講師の指導により14本伐採した。

昼食ではおにぎりに加え野菜たっぷりの汁物、地元で採れたヒラタケのソテーを準備いただき皆で堪能した。その後は、伐りたての間伐材でスウェーデントーチづくりチャレンジ。



1個目は、火力が弱くうまくできなかったが、2個目は講師の方が穴をあける工夫をしてくださり無事ポップコーンができた。参加者からは非日常の体験が楽しかったとの声をいただき、楽しみを作りながら取組むことの大切さを改めて感じた。

### 3. 2013年・2014年植樹地整備(蔓、サブリガードの除去、苗木の手入れ)

3月3日(土)、春のように日差しに恵まれ参加者6名が集まった。今回は急斜面な場所での整備を軸に行うため一般募集はせず専門家、スタッフ、関係者のみで活動を行った。2013・14年の植樹地は、バラのようなトゲのある植物が多数あり、苗木までたどり着くのも一苦労であったが、剪定鋏で蔓や灌木の枝を取り除き、道を切り開き1本ずつ蔓や倒れてしまって苗木の生育を阻害するサブリガードを除去した。蔓にまかれて曲がってしまったものも多かったが、順調にまっすぐ育った苗木は2mを越える背丈に生長しており、時間の経過と生命の力強さを感じる姿になっていた。午前・午後と約5時間かけて無事に整備と苗木の手入れを完了した。蔓などの影響もあり、今後どの程度生き残っていけるかは苗木の生命力にゆだねるところもあるが、引き続き整備に努めて生育を見守っていききたい。





## 【奈良・吉野町での間伐／PAL 植樹地整備事業】

### ◆世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業 (PAL 植樹地整備事業)

2010 年より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL／フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

2017 年も例年同様に植樹地の下草刈り、植栽した苗木と鹿の食害防除ネット(サブリガード)の補修作業を実施した。道上方の植樹地への入り口部分が、普段山林に足を踏み入れないボランティアには急峻だったようで、ロープを張ってアクセスを補助した。ボランティアには、山林での作業に適した服装(長袖、靴)を徹底するよう、あらためて呼び掛けたい。

<実施日> 2017 年 11 月 11 日(土)

<参加者> 33 名 (内訳) 株)パル、ザ・パック株)、吉野中央森林組合、NPO 法人地球と未来の環境基金



### ◆元気森・MORI in 吉野山 (間伐体験事業)

2017 年 11 月 18 日、奈良県吉野山で、毎年恒例の一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐活動「元気もりもり・MORI in 吉野山」を実施予定としていたが、あいにくの雨天のため中止とした。

町内外から 87 名もの参加者が駆けつける見込みで、また間伐活動終了後には希望者 19 名を対象に、木材加工の現場とモデルハウスを見学するプログラムも予定していたので大変残念である。

## 【奈良・吉野町での「ふるさとの森づくり事業」】

長年活動を続けている奈良県吉野町で、今年は新たに「ふるさとの森作り事業」として、幼稚園等の子どもが校庭などでどんぐりの苗木を育てて、これを吉野山の民有林(台風等で崩落し、その後手入れをしていない場所)に植樹する活動に協力することになった。活動資金は国土緑化推進機構の緑の募金助成を活用し、企画、準備には吉野町中央森林組合や地元の教育委員会、奈良県の緑化推進協会が関わり、当団体は緑の募金への助成申請等業務を担った。

吉野町の幼稚園児が参加する植樹活動は、2017 年 11 月 12 日(日)午前中に実施した。当日は園児の親御さんら総勢 20 名余りが参加し、子どもたちは自分たちで育てた苗木(120 本)を親御さんと一緒に植樹した。本活動は、緑の募金の助成を得て行われているが、当日は同募金へ寄附を行なっている企業(ゴルフ場や保養所など経営しているリソルホールディング株)の CSR 担当者も参加し、子どもたちと一緒に植樹活動を行った。

次年度以降は、引き続き吉野町教育委員会や幼稚園などの協力を得て、子どもの環境教育の一環として、山で拾ったどんぐりを苗木ポットで育苗し、幼稚園等では紙芝居等を活用した学びの時間を設け、一定程度育った苗木を山にもどす活動として継続して行く予定で、当団体では吉野町中央森林組合とも協力し、本活動を支援して行く。



緑の募金の青木常務(写真左)も参加された



植樹に参加した親子とリソル社の役員(写真左)



### 【広島・竹原市での植樹地メンテナンス事業】

今年も竹原市では、苗木の生長を促す草刈によるメンテナンス活動を行った。場所については昨年までは国有林(2009年～2013年植樹)で活動を実施していたが、尾三地方森林組合、広島森林管理署森林官立ち会いのもと、8月25日に現地を視察した結果、植樹した木はいずれも草のよりも大きく生長し草刈をしなくても十分に生育できる状態となっていたため、今年度より竹原市の市有林で活動を行うこととした。

8月26日(土)地元竹原高校の生徒、(株)エディオン、ザ・パック(株)等の企業社員、竹原市役所職員の合計34名が参加し、実施することができた。

早朝は今にも雨が降り出しそうな空模様であったが、朝8時バンブー公園に集合し、車および徒歩で現場に到着する頃には、少し晴れ間も見えるほどの天気回復していた。到着後は全5班にわかれ、尾三中央森林組合にご指導いただきながら約2時間かけて長柄鎌による草刈作業を行った。

今回はじめてボランティアによる市有林での草刈活動を行ったが、国有林に比べて比較的土壌条件も良いようで、小さいながらも苗木がしっかりと根付いている様子を確認できた。また参加したボランティアの皆さんも急な斜面と蒸し暑さに耐えながら、熱心に作業してくださり無事活動を終えることができた。今後も市有林で国有林同様に丁寧にメンテナンスを継続していきたい。



現場へ続く林道を順に進む



額に汗しながらの草刈作業



いい汗をかいたみなさんで集合写真！



生長してきた松



## 【広島・呉市での水源林保全事業】

広島県呉市で新たな活動への参画がスタートしている。呉市にある野呂山(標高 839m)の森林は、土砂災害防止・水源涵養としての機能と同時に、シラウオ漁やカキ養殖が盛んで、世界的にも有名なアマモの藻場が成育する三津口湾の海域に、良質の水を届ける重要な役割を担っている。しかし、近年、松枯れや手入れの行き届かない森林の荒廃により、その景観や土砂災害防止等の機能が損なわれるとともに、地域住民が身近に森林と親しみ、自然環境について学ぶ里山としての役割も失われつつある。そこで、森林所有者や漁業関係者等が協力し、荒廃した森林を整備し、市民参加型の森づくりへの意識啓発を図ろうとの機運が地元で高まりつつある。

活動には2人のキーマンの存在がある。一人は、広島県竹原市の山火事跡地での植樹活動で長年協力いただいた旧・芸南森林組合(現在は森林組合統合により尾三地方森林組合へ併合された)の組合長であった中原謙治氏である。もう一人はやはり竹原市での植樹活動で知り合った安浦町漁業協同組合の若手部会(わかぶ会)の会長・金田祐児氏だ。野呂山山麓に位置する中畑地区の共有山保存会(いわゆるゆる入会山)で会長を務める中原氏は、水源林の役割を果たす共有山が、人が利用しなくなり荒れている現状をなんとかしたいと考えていた。他方、野呂山を水源とする野呂川の下流に位置する三津口湾で先祖代々伝統的な牡蠣養殖を営む金田氏は、近年牡蠣の生育が悪く、親の世代では1年で種付けから収穫が得られたのが、今は3年かかり、その要因の一つに山の荒廃があることを東北地方の同じ牡蠣養殖者・畠山重篤氏(NPO 法人森は海の恋人の創業者)の講演で気づき、自身も地域の森林整備活動に参画したいと考えていた。

そこで当団体が両者の仲立ちをし、何度か話し合いを経て、2016 年度から共有山保存会が実施主体で2年間の呉市の特認事業(補助金事業)として除間伐など整備を開始した。これを引き継ぐ形で、今年度からは当団体が国土緑化推進機構の緑の募金へ助成金申請を担い、共有山保存会と安浦漁協と連携し、整備活動を継続している。今期実施した活動は以下の通りである。

### 1. 植樹(2018年1月21日)

広島県呉市安浦町中畑地区(野呂川ダム周辺の山林)の山林(総面積は約 3.0ha で今年度対象地は約 0.25ha)において広葉樹を中心に約 500 本を植樹した。当日は地元の共有山保存会、安浦漁協わかぶ会、地元住民有志ら総勢 84 名が集い、まだ寒さ残る中で苗木を植えた。また、本活動は国土緑化推進機構の緑の募金の助成をいただいているが、その緑の募金のスポンサーであるローソン(株)の本部 CSR ご担当の仙田氏や呉市のローソンの

オーナー社長なども参加され、一緒に植樹活動に汗を流された。

### 2. 親子参加の環境学習会(2018年3月10日)

山と海のつながりを現場で学ぶための環境学習会を開催した。植樹した山を水源とする野呂川の下流に広がる三津口湾で、牡蠣養殖を営む金田さんの牡蠣船に乗船し、牡蠣筏(日本唯一現存する杭打ち式牡蠣筏)の間近まで行き、金田さんから牡蠣の成育には山のミネラル分が大切なことなどお話を伺った。

1/21 の植樹祭風景

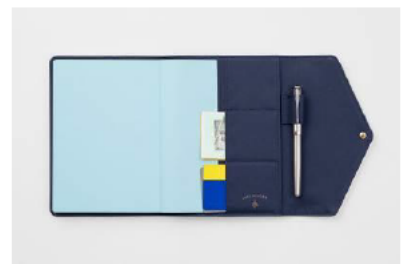
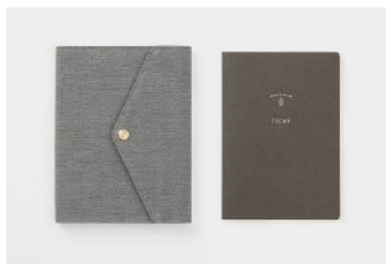


3/10 牡蠣養殖場での環境学習会



【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

“吉野の木から生まれた布で吉野の森を守る”をキャッチフレーズに奈良県吉野の間伐材を原料に布をつくる「結糸」(YOUITO)プロジェクト。今年度も企業・行政への提案を行い、株式会社デザインフィルとのコラボレーションが実現した。今回、初めて草木染した生地を採用いただき、美しいグレーの色味を活かしオリジナルブランド【TOUCH & FLOW(タッチアンドフロー)】でダイアリーセット、バッグの一部に使用された。加えてオフィシャル WEB サイトでも「紙と布」と題したコラムを掲載いただき、紙という視点から紙と布の関係、その紙の原料となる日本の森林背景などもお伝えいただいた。商品は TOUCH & FLOW 湘南 T-SITE 店、東急プラザ銀座店、オフィシャルオンラインショップで販売されている。



また、百貨店の催事にも継続出店し、今年は 2 つに参加した。1つ目の大丸東京店では企画から提案し「未来へつなぐ・つながるプロダクトフェア」と題して昨年伊勢丹新宿店でコラボしたアロマブランド「NIKKA」を始め、地域の資源を大切にしたモノづくりする 6 ブランドの方々と共に商品を販売、ワークショップなどの体験も含めて展開した。2つ目は結糸のデザイン・ディレクションいただいている STUDIO BYCOLOR 秋山氏が出展するイベントにお声掛けいただき、岡山天満屋にて商品を展示・販売させていただいた。

<出店催事>

- ・ 2017 年 6 月 21 日(水)～27 日(火) 「未来へつなぐ・つながるプロダクトフェア」大丸東京店  
参加ブランド：Ki&、NIKKA、mamamano、portierra、ろくろ舎、結糸-YOUIITO-
- ・ 2017 年 10 月 11 日(木)～16 日(水) 「Design meets 0.」岡山天満屋 /葦川会館





## 【生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人 CEPA ジャパン事務局)】

2010 年 10 月に開催の生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において採択された「愛知目標」の短期目標を達成するため、主導的な役割を果たした「生物多様性条約市民ネットワーク」の活動が母体になり「一般社団法人 CEPA ジャパン」が設立された。当法人は CEPA ジャパンからの依頼を受け 2013 年より事務局業務の一部を受託し、今年も地球環境基金助成事業に係わる事務をはじめ、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)主催の生物多様性アクション大賞事務局業務も担った。

### ●生物多様性アクション大賞 2017 概要●

「国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J)では、国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけている。「生物多様性アクション大賞」は、全国各地で行われている5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化に貢献するもので 2013 年度に創設。2014 年度より UNDB-J と一般財団法人セブン-イレブン記念財団との共催で実施。今年度より環境大臣賞、農林水産大臣賞、特別賞として SDGs 賞が新設された。

■募集期間: 2017 年 7 月 15 日(土)～2017 年 9 月 18 日(月・祝)

■大賞賞決定・授賞式: 2017 年 12 月 8 日(金) ■URL: <http://5actions.jp/award/>

#### ■実施体制

主 催: 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J) 共 催: 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協 賛: 前田建設工業株式会社 セキスイハイム 特別協力: 公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

協 力: 国連広報センター、富士フィルム株式会社、株式会社オルタナ

後 援: 生物多様性自治体ネットワーク、朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社、環境省、農林水産省

事務局: 一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員: 渡邊綱男(IUCN 日本委員会委員長)※審査委員長※、足立直樹(レスポンスアビリティ)、

小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、梶谷辰哉(国土緑化推進機構)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、中川一郎(農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)、長田啓(環境省自然環境計画課生物多様性主流化室長)

■応募総数: 116

■環境大臣賞 : 「エコミーティング～建設業における環境活動～」株式会社加藤建設(愛知県)(まもろう部門優秀賞)

■農林水産大臣賞: 「魚部～人物多様性をもとに、生物多様性を伝える活動」北九州・魚部(福岡県)(つたえよう部門優秀賞)

■5部門優秀賞: たべよう部門・石巻市立大原小学校(宮城県)、ふれよう部門・とくしま生物多様性リーダーチーム(徳島県)

えらぼう部門・特定非営利活動法人つくしん棒(岐阜県)

■特別賞(4 賞): 復興支援賞・気仙沼市立大谷中学校(宮城県)、グリーウェイブ賞・特定非営利活動法人三嶺の自然を守る会(徳島県)

セブンイレブン記念財団賞・兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班(兵庫県)

SDGs 賞・渋川小学校・滋賀の郷土料理学習実行委員会(滋賀県)

■審査委員賞 : 魚津三太郎倶楽部(富山県)、特定非営利活動法人大杉谷自然学校(三重県)みさを大豆研究班(熊本県)

一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク(宮城県)、特定非営利活動法人田んぼ(宮城県)

山梨県立吉田高等学校放送部×富士山アウトドアミュージアム(山梨県)

この 他 38 団体が入賞



## (2) 海外環境保護事業

### 【ブラジルでの河岸林保全事業】

2014 年から各種助成金を活動資金とし、現地カウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会 (ASFLORA)」の協力を得て、アマゾン地域での河岸浸水林保全事業を継続して来た。2017 年度は助成金ではなく、企業からの寄付により現地活動を支援した。三井住友銀行は役職員給与天引による積み立て「三井住友銀行ボランティア基金」を設置している。同基金の寄附先として、当団体のアマゾン地域での河岸林保全活動が選定され 100 万円のご寄附をいただいた。本年度はこの資金や他の企業寄付を活用し、アグロフォレストリーを導入したアバエテウーバ近郊のコミュニティで植栽後の管理等への継続的な伴走支援や、森林環境教育や啓発活動を行った。

#### <環境教育実績>

- ① 2017 年 8 月 8 日：ベネビーデス市 (ASFLORA 本部)  
(参加者) サンタイザベル市、ベネビーデス市の三校の生徒合計 72 名と教職員 12 名
- ② 2017 年 12 月 22 日：サンタルバラ市 (エスペジット・リベイロ入植地)  
(参加者) 地元住民 219 名、アマゾニア農大の先生、在ベレン領事事務所長  
サンタルバラ市保健衛生部長、ハイネッケン社従業員

8 月 23、24 日にはアバエテウーバ市で河岸林保全のためのアグロフォレストリーを導入したコミュニティの住民 2 名が、アグロフォレストリー先進地のトマスで開催されるセミナーに参加した。セミナーには、約 170 名の参加者があり、初日は、トマス・アグロフォレストリーでの肥料と灌水、ピタヤ (ドラゴンフルーツ) 栽培、カカオの新たな病害が近隣諸国に蔓延している情報と対策、家族農業者の簿記と生産コスト把握の実施例など有益な情報を学べたようだ。

今年はブラジルでのアグロフォレストリー普及事業に関連して、2018 年 2 月 24 日から 3 月 5 日にかけて、以前、当団体でも助成をいただいた国土緑化推進機構 (緑の募金) の青木正篤常務と、現況モニタリングを行なう専門家、長崎大学大学院教授の池上清子教授を、現地にご案内する機会をいただいた。訪問趣旨は緑の募金で助成したブラジル・アマゾン地域の事業地の現況モニタリングで、ベレン近郊のサンタルバラ市 (エスペジットリベイロ入植地) とトマス郡 (マサラドゥーバ、4a ヘジオンなどの生産者組合) を訪問し、住民らからアグロフォレストリー導入の経緯や苦勞、自己評価などを伺った。



ASFLORA の森の環境劇



トマスの生産者組合を訪問し、苗畑を見学。  
写真左が池上清子先生。



### (3) バガス(非木材紙)普及事業

#### 【大学の学園祭へのバガスモールド(エコ容器)導入】

2009 年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす(バガス)を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、紙関連業界(卸商や小売店など)に対するバガス(非木材紙)への認知度向上および経済的インセンティブの喚起を目指している。

2012 年からは、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りについても相談に乗るなどのサポートも実施して導入校を増やしてきた。また、埋め立て場所を持たない都市部の大学から多く寄せられる廃棄モールドの土壌分解の要望に応えるため、小規模農家や農業生産法人とコンソーシアムを組み、土壌分解のサービスの展開を模索している。本年度は、キャンパス内にある破砕機と農場を活用して、従来から独自の取り組みを続けてきている東京農業大学厚木キャンパスの収穫祭より新規の注文を受け付けている。

引き続き、EFF、大学、小規模農家や農業生産法人という三者のパートナーシップで[学園祭でのモールド使用・分別収集]→[運搬・破砕]→[埋め立て]→[学生と農家との交流促進/土壌の利活用]というサイクルを回し、導入校を増やしていきたい。



#### <2017 年度 学園祭でのバガスモールド導入実績(個数)>

大学名 (日時)	どんぶり				パック		丸皿			平角皿		コップ	モールド 合計	木製 スプーン #162 162 mm
	MD-3	MD-5	MD-6	MD-7	MP-1	MP-2	MM-3	MM-4	MM-9	MT-1	MT-3	L051		
	φ154× 54	φ160× 68	φ135× 47	φ112× 45	184× 129×44	171× 118×37	φ220× 20	φ180× 17	φ152× 47	200× 111×13	200× 140×17	φ80× 91		
信州大学 松本キャンパス (10月28~29日)								300					300	
東京農業大学 世田谷キャンパス (11月3~5日)	15,000					23,400			5,500		3,100	19,000	66,000	1,800
東京農業大学 厚木キャンパス (11月4~5日)	5,300	1,900	3,200	5,100	4,000	700	1,100	2,700	500	2,200	750	600	28,050	500
愛媛大学 城北キャンパス (11月11~12日)								50			450	300	800	
合計	20,300	1,900	3,200	5,100	4,000	24,100	1,100	3,050	6,000	2,200	4,300	19,900	95,150	2,300

#### .(4) 環境助成金プログラム支援事業

##### 【環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)】

パナソニック㈱との協働で実施している、NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPOサポート ファンド』は、今年度も前年同様の内容で取り組んだ。助成テーマは「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」とし、第三者のアドバイザーを導入することで実効性の高い組織課題解決の取り組みを推進し、環境分野の市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進、社会の変革へ貢献することを目指している。

従来と同様に、新規の助成団体を公募した。応募時期に合わせては、全国 6 地域(京都、熊本、高知、山形、横浜、長野)で、パナソニック㈱と日本 NPO センター、各地の中間支援組織との共催で「NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ & 公募説明会」が開催された。ワークショップには NPO の組織基盤強化に高い関心を寄せる参加者が多く集まったが、助成への応募数は 27 件(2015 年および 2016 年募集の助成団体からの継続申請案件 10 件を含む)にとどまった。

助成団体の選考プロセスは、7 月 29 日に公募を締め切り、応募のあった全 27 件中 2 件は応募要件を満たさず、3 件は助成趣旨に合致しない内容と判断し、残る 22 件について 4 人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で 9 月上旬に選考委員会を開催、助成先候補として新規応募団体から 5 団体、継続応募団体から 7 団体を選定した。9 月上旬～10 月初旬に事務局が助成先候補の 12 団体のうちの 5 団体(新規)を訪問し、選考委員会で出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(実査)を実施した(継続 7 団体はヒアリングを省略、メールコミュニケーションでの確認とした)。10 月中旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、パナソニック㈱との協議および選考委員長の決裁を得て最終的に新規応募 3 件、継続応募 5 件に計 1,464 万円の助成を確定させた。

2017 年に本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ 8 団体[助成事業期間: 2017 年 1 月～12 月]からは四半期報告書で助成事業の進捗について報告を受け、6～7 月に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた計画の変更などを協議した。2018 年 3 月 15 日には、助成先 8 団体を集めて成果報告会(於 パナソニックセンター)を開催、事業成果の発表と共有を行い、選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。



## ＜Panasonic NPOサポート ファンド 2017 年募集事業 助成先＞

助成団体	所在地	代表者（役職）	助成額 （万円）
<b>【組織診断事業】</b>			
<u>（特活）足尾に緑を育てる会</u> 「荒廃した足尾の山に百万本の木を植え自然を回復させ渡良瀬川の清流を取り戻す活動の組織診断」	栃木県	鈴木 聡（会長）	100
<b>【組織基盤強化事業】</b>			
<u>（特活）持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会</u> 「環境共生「自伐型林業」の全国展開期における中期事業推進計画策定を通じた組織基盤強化事業」	東京都	中嶋 健造（代表理事）	200
<u>（特活）山村塾</u> 「農家が主体となった都市農山村連携事業を継続するための組織基盤強化」	福岡県	宮園 福夫（理事長）	200
<b>【組織基盤強化事業】（継続 2 年目）</b>			
<u>（特活）大雪山自然学校</u> 「大雪山国立公園・旭岳エリアにおける「利用者による環境保全」の実現に向けた組織基盤強化」	北海道	荒井 一洋（代表理事）	200
<u>（認定）JUON NETWORK(樹恩ネットワーク)</u> 「より多くの人々が活躍するための組織基盤強化と中期計画の策定」	東京都	生源寺 真一（会長）	200
<u>（認定）自然環境復元協会</u> 「第 2 創業期への移行時における危機的状況を機会とした、もっと社会に貢献できる NPO への成長」	東京都	石川 晶生（理事長）	200
<u>（特活）兵庫県有機農業研究会 HOAS</u> 「次世代へつなげる組織基盤強化に向けた理事会のガバナンス改革と組織運営強化事業」	兵庫県	牛尾 武博（理事長）	164
<b>【組織基盤強化事業】（継続 3 年目）</b>			
<u>（特活）棚田 LOVER's</u> 「棚田保全に向けた主力事業の構築、質的向上による組織基盤強化事業」	兵庫県	永菅 裕一（理事長）	200
助成総額（8 団体）			1,464

### 【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成25年5月より、省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家発電設備(コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む)の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、両者とも補助金の交付事業は終了している。平成28年度はガスコージェネレーション推進事業については、同補助金交付の事務局を担った(一社)都市ガス振興センターを通じて、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しなどの業務を行なった。また、自家発電設備導入促進事業においては、補助金による取得財産の処分事案が1件発生し、これに対応した。

平成27年5月に交付決定の取消を行ない、補助金(5億円)の返還を求めているテクノ・ラボ(株)の事案については、当時の同社の実質経営者であった岡登和得氏への刑事裁判は最高裁での判決を待つ状況であるが、民事訴訟については、訴訟費用が基金財源から支弁できないという事情から提訴を見送って来た。今年2月になって、資源エネルギー庁の新しい担当者から、財務省と裁判費用(約900万円)を基金財源から支弁できるよう財務省と協議するので、民事訴訟の準備をするようにとの指示があった。これを受けて、当法人では顧問弁護士石井邦尚氏、事務局を委託していたみずほ情報総研(株)の協力得て、民事裁判の提訴準備を進めている。

#### 【財産処分の状況】

- ガスコージェネレーション推進事業 (事務局:(一社)都市ガス振興センター)
  - 財産処分の報告があった件数: 0件
  - 財産処分に伴う補助金の返納額: 0円
- 自家発電設備導入促進事業 (事務局:みずほ情報総研(株))
  - 財産処分の報告があった件数: 1件
  - 財産処分に伴う補助金の返納額: 0円(事業承継と認定)

### 【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成26年2月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後5年間、補助事業者の毎会計年度終了後90日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成27年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成28年度より収益状況報告書の收受、確認の業務を行なっている。

平成29年度は平成30年3月末までに44件の収益状況報告書を收受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しの事案が1件発生した。これについては、本補助金事業で事務局を委託していた三菱総研(株)を通じて対応した。

#### 【財産処分の状況】

- 財産処分の報告があった件数: 1件
- 財産処分に伴う補助金の返納額: 1,822,831円



## 2017 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

### ■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



#### ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



#### 株式会社パックタケヤマ

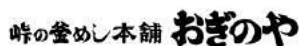
商品売上げの一部で国内森林保全活動をご支援いただいています。



\* W A S A R A

#### 株式会社 WASARA

国内・海外の環境保全活動をバガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



#### 株式会社荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

#### 服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛

## 株式会社 エディオン

### 株式会社 エディオン

国内森林保全活動(奈良・広島)に、ご協賛・ご参加頂いています。

### サイタ工業株式会社

国内森林保全活動(埼玉)に、ご協賛・ご参加頂いています。



### 前田建設工業株式会社

国内森林保全活動(全国)に、ご協賛・ご参加頂いています。

※ 社員と家族の環境活動を推進する社内エコポイント制度 Me-pon で貯めたポイントの交換先として、有志の方々から寄付をいただいています。

■ ポイントプログラムを通じたご寄附・ご支援



### Gooddo (グッドゥ)

社会貢献を身近にするプラットフォーム。WEB サイトでのクリック数をポイント化したご寄附をいただき、国内の森林保全活動に活用させていただきます。



特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

## 平成30年度事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

### ◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

#### (1) 国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業
- ・ 千葉 君津市、木更津市での植樹地メンテナンス事業
- ・ 埼玉 飯能市での森林整備事業
- ・ 奈良 吉野町での間伐／PAL植樹事業
- ・ 奈良 吉野町でのふるさとの森再生事業
- ・ 広島 竹原市での植樹メンテナンス事業
- ・ 広島 呉市での植樹事業
- ・ 間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト)
- ・ 生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人CEPAジャパン事務局)

#### (2) 海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの河岸林保全事業

#### (3) バガス(非木材紙)普及事業

- ・ バガス普及啓発事業(大学学園祭へのモールド導入)

#### (4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)
- ・ 分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁)
- ・ 廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁)

### ◆2018年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

## 1) 国内森林保全事業

### 【岩手・西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

岩手県和賀郡西和賀町にあるザ・パックフォレスト活動第 1 号地において、地元の「西和賀森づくり隊」のメンバーを中心に、植樹地の下刈りを行なった。今年はお盆前の 7 月 28 日(土)午前 9 時頃から実施。県道から植樹地へアクセスする私道も雑草が覆い自動車が通れないほどであり、私道、植樹地やザ・パックフォレストの看板周辺を中心に刈り払い機を使って作業を実施した。

今回は西和賀森づくり隊の隊長新田さんが体調不良で参加されなかったのは残念だが、新たに地元の若手メンバーも参加してくれた。皆さん野良仕事は手慣れており、半日かけて植樹地をきれいにした。引き続き年 1 回、地元の方々と交流しながら、植樹地の整備、維持に努めてゆく。



雑草が生い茂った植樹地



刈払い後の植樹地。樹高 7~8mほどになっている



刈払い後のザ・パックフォレストの看板



西和賀森づくり隊メンバー。刈払い機作業中



【千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」、

君津市「豊果(ゆたか)の森」&「四季彩(しきさい)の森」の育林活動】

6月23日、9月15日(雨天のため1回目を1日で切り上げ、2日に分けて)、刈り払い機4台、チェーンソー、ノコギリ、剪定バサミ等を用いて、千葉の植樹地3サイトの下刈と苗木のメンテナンス作業を実施した。

◆千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」 <6月24日>

参加者はEFF1名+7名。中央部から奥と斜面上部は丈3-4mの灌木のため刈払機での作業は無理だったため、苗木の周辺部分を剪定鋏とノコギリで刈り、陽が当たるようにした。条件の良い木は6m程度、逆に陽の当たらない場所の苗木は細く、その差は歴然だった。昼食後も同じ作業を継続し、手前部は苗木を残して刈り終える。翌日の天気がよくなることを祈って、宿泊予定のかずさの森へと向かった。しかし、残念ながら雨はあがらず、豊果(ゆたか)の森と四季彩(しきさい)の森については、後日あらためて実施することを決定した。

◆君津市豊果(ゆたか)の森 <9月15日>

参加者はEFF1名+3名。平地部の草刈り、傾斜地部の草刈りとアブラギリの伐採、サプリガードの撤去回収(平地部道路側の枯死したもの、約20セット)を実施した。生育状況は、枯死したものは除いては順調に生育している。柿2本とミカン2本に実がなっていた。継続して、丁寧に育てていきたい。



豊果(ゆたか)の森

◆君津市四季彩(しきさい)の森 <9月15日>

参加者は、豊果(ゆたか)の森と同じ、EFF1名+7名。通路部の草刈り、手前側通路下側のアブラギリ伐採、パンパンに膨らんだサプリガードを外す作業(約20本)、散乱している資材の片付け。外したサプリはまとめておいてある。生育状況はよろしい。カツラ、オニグルミ、クリなどはサプリが膨らむほど太く生長している。イロハモミジ、トチはそこまで太くなっていない。



四季彩(しきさい)の森

豊果(ゆたか)の森、四季彩(しきさい)の森、両サイトとも、ヒルが大量発生しており、全員が数カ所を喰われる。高橋は地べたの資材片付け作業したためか、首を9カ所と手首を4カ所喰われた。

今後の活動については、君津2サイトについては苗木の生育が大変良好なので、ヒルシーズン(5~10月)の草刈りは実施せず、サプリガードのメンテナンスとアブラギリの伐採を中心に行っていく方針としたい。3~4月の新緑、11~12月の紅葉、または冬の落葉の時期が良いだろう。

## 【埼玉・飯能市での森林整備事業】

埼玉県飯能市での保全活動も7年目を迎えた。2018年度も、サイタ工業株式会社からの協賛、埼玉県助成の支援を得て、植樹地の草刈り活動と間伐体験活動に取り組んだ。

### ◆草刈り活動 <10月13日>

当初は9月1日に実施予定としていたが、2度の台風が関東を直撃したため、10月中旬の草刈りになってしまった。参加者はEFF1名+3名。台風の影響で直径30cmの杉が倒れ、アクセス不能になっていたため、チェーンソーで玉切りして除去、通行可能にした。3、4年目の植林地は下から草刈りをスタートさせて、上部が残ったが7割ほどを刈ることができ、草で覆われていた苗木を露出させた。5年目の植林地は全面を草刈りすることができた。最後に、下の昼食スペースの草刈りを完了させた

1、2年目の植林地については、急峻な傾斜であるため、草刈りの作業は㈱フォレスト萩原に委託した。委託費は助成金から捻出した

### ◆間伐体験活動 <12月15日>

夏～秋季にかけての台風で草刈り活動が2度延期になったため、間伐体験活動も後倒しにせざるを得ず、異例の12月中旬の実施となった。参加者全10名(ボランティア6名(うち親子2組)+指導者2名+EFF2名)を2つの班に分けた。

今回は、参加者のほとんどが間伐の活動自体が初めての人たちだったが、指導者の丁寧な手ほどきを受け、各班4～6本、約10本を伐採した。昼食はおにぎりと、㈱フォレスト萩原特製のキノコ汁を皆で堪能した。昼食の際中、間伐材でスウェーデントーチづくりにチャレンジしたが、気が湿っていたためか火力が強くならず、点火できなかった。

晴天の中とはいえ、12月中旬の飯能の山は大変寒く、かなり体力を消耗したと思われるが、参加いただいたボランティアからは非日常の体験が楽しかったという感想をいただいている。



間伐初体験のボランティアの皆さん。高校生が2名参加した



## 【奈良・吉野町での間伐／PAL 植樹地整備事業】

### ◆元気森・MORI in 吉野山

2018 年 11 月 10 日、奈良県吉野山で、一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐活動「元気もり・MORI in 吉野山」を実施した。毎年恒例のイベントだが、2016 年、2017 年と 2 年連続であいにくの悪天候のため中止としており、3 年ぶりに開催することができた。にもかかわらず、町内外から、多くのリピーターを含む 87 名もの参加者に参集した。87 名を全 8 班に分け、各班の林業専門家の指導のもと吉野の山の森林整備に汗を流した。

まず、伐る木を選び(選木)、倒す方向を決め、縄を木にかけ、腕の反動で上へ上げていく。ベテランボランティアは、久しぶりの縄上げも慣れた手付きだ。鋸で 3 分の 1 程度の切込みを入れた後は、反対側から鋸で切っていく、ある程度のところで縄を引っ張って木を倒す。

作業終了後には、参加者全員で、大変暖かい日の中、配給を受けた豚汁とおにぎりで一息つき、各々の活動成果について語らい、交流した。昼食後は、吉野の間伐材を材料にしたベンチを制作した。観光客が一息つくためのベンチが劣化、不足しており、吉野山の観光振興のために有効に活用されることを期待したい。



#### <実施概要>

日時： 2018 年 11 月 10 日(土) 場所： 奈良県吉野郡吉野町 吉野山観光駐車場から徒歩  
活動： 間伐予定地 1ha(40 年生スギ・ヒノキの混合林) のうち 1ha の山林の 20%(約 120 本)の間伐

#### <参加者> 87 名

ザ・パック(株)、(株)エディオン、吉野中央森林組合、吉野山林業研究会、吉野山自治会、一般参加の皆様、  
NPO 法人地球と未来の環境基金

### ◆世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業

2010 年 11 月より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL/フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

2018 年は植樹地の下草刈り、枯れた苗木の植え替え、鹿の食害防除ネット(サブリガード)の補修作業を実施した。



#### <実施概要>

日時： 2018 年 11 月 17 日(土)

#### <参加者> 34 名

(株)パル、ザ・パック(株)、吉野中央森林組合、NPO 法人地球と未来の環境基金

## 【奈良・吉野町での子どもたちの未来の森づくり事業】

前年度、奈良県吉野町の幼稚園等の子どもが校庭などでどんぐりの苗木を育てて、これを吉野山の民有林に植樹する活動を行なった。活動資金は国土緑化推進機構の緑の募金助成(ふるさとの森作り事業)を活用したが、2018 年度の活動も当該助成(名称が「子どもたちの未来の森づくり事業」に変更)を資金源として活用した。企画、準備には吉野町中央森林組合、地元教育委員会が関わった。

植樹活動は 2018 年 11 月 18 日(日)に実施した。前年度は幼稚園で育てたどんぐりの苗木を植えたが、園で苗木がうまく育たず枯れるなどして必要な苗木が調達できなかったことから、苗木は森林組合で調達してもらった。当日は吉野町の幼稚園児とその親御さんら総勢 15 名ほどが参加し、急斜面ではあったが、苗木(120 本)を植樹した。

### 【実施概要】

日時： 2018 年 11 月 18 日(日)10 時～ 場所： 奈良県吉野郡吉野町檜尾 50、59(0.15ha)

参加者： 吉野町 わかばこども園の園児、父兄 15 名 植樹本数： 120 本



急斜面でお母さんと一緒に植樹作業



苗木横に名前入りのプレートを設置



助成いただいた緑の募金(協賛:ファミリーマート)の横断幕前で記念写真

当日はザ・バック OB で元当団体理事の平田さんも手伝いに来ていただいた





【広島・竹原市での植樹地メンテナンス事業】

竹原市のフォレスト活動植樹地（竹原市有林）での下刈り活動は、今年度は「平成 30 年 7 月豪雨」の影響を受けて中止となった。同豪雨では竹原市内でも数箇所では土砂崩れが発生、市内を流れる河川が氾濫するなど大きな被害が出た。豪雨後、尾三地方森林組合に植樹地の状況を確認してもらったところ、幸い植樹地に特段の被害はなかったことから、当初は実施に向けて準備を進めていた。しかし、豪雨によって地域住民の足となっている JR 呉線が多く区間で長期間不通となり、例年参加いただいている地元の竹原高校の生徒が下刈り日となる土曜日に登校することが困難（親の車等で送迎が必要になるため）という事情から、竹原高校の西村校長とも協議し、中止を決定した。西村校長によれば、豪雨被害から間もない時期での山での活動は、生徒の父兄からも不安を訴える声があったようだ。植樹地の下刈り・メンテナンスについては、今年度は尾三地方森林組合に委託して実施した。植樹地の現況は下写真の通りで、2014～2015 年にかけて植えて 3～4 年が経過、概ね順調に成長しており、もう少し丈が伸びれば下刈りも不要となる見込みである。



（写真左）平成 30 年豪雨後（H30. 8）の竹原市（市有林）植樹地の様子

幸い土砂崩れなどは発生しておらず植樹地も無事

（写真右）森林組合にて下刈り後。2015 年に植栽した松がよく活着、50～60cm に育っている



（写真上）豪雨で被災した竹原市内の様子。土砂崩れや河川の氾濫などが数箇所では発生していた。

### 【広島・呉市での水源林保全事業】

広島県呉市で前年度からスタートした活動は、2 年目を迎えたが、大変悲しく残念な出来事が重なった。活動地である野呂山の水源エリア(安浦町)は、「平成 30 年 7 月豪雨」により甚大な被害を受けた。当団体が地元の共有山保存会、安浦漁協と連携し、2018 年 1 月に植樹を実施した場所も、豪雨による土石流で完全に崩壊した。豪雨発生直後、尾三地方森林組合に現地状況を確認するも、植樹地へつながる道路が土砂崩れ等で寸断され近づけないとのことで、全く状況がつかめずにいた。テレビ等の報道で安浦町の被災状況が映される様子から、相当な被害が出ている可能性が推測されたことから、1 ヶ月ほど経った 8 月半ばに状況確認のため現地入りした。依然植樹地付近の道路は土砂で寸断されていたことから、車でのアクセスを断念し、途中から徒歩で土砂崩れ場所を乗り越え植樹地まで到着。最悪の光景を目の当たりにした。まさに言葉を失う悲惨な状況で、山腹から谷筋に沿って土石流が発生し、膨大な量の土砂が植樹地を押し流し、植樹地下の道路を越えてダム湖まで達していた。



山腹からの土石流が植樹地を押し流した



土砂は植樹地下方のダム湖まで達していた



植樹地につながる道路も至る所で土砂崩れが発生



植樹地下の道路も完全に埋まっていた

2018 年 6 月には、1 月に苗木を植えた植樹地の下刈りを地元の共有山保存会有志と一緒に実施した。豪雨が発生する 1 ヶ月前のことで、まさか 1 ヶ月後に手入れした植樹地が土石流に飲まれることになるとは、誰も想像だにしていなかった。





豪雨発生 1 か月前(H30.6)地元共有山保存会有志で下刈りした際の植樹地の様子

また、豪雨によって共有山保存会会長の中原謙治氏も自宅ごと土石流に飲まれた。住居の 2 階と 1 階の間に挟まれながら、幸い中原氏ご夫妻とも九死に一生を得て、間一髪のところまで救助された。その後、土石流に飲まれた際に負った怪我は徐々に癒えて来ていたが、数年前から治療を続けておられた癌が急に悪化、11 月 3 日急逝された。

中原氏は竹原市でのザ・バックフォレスト活動(4 号地)立上げ時の 2004 年から、芸南森林組合(現尾三地方森林組合)組合長として長年尽力いただいた方である。豪雨の土石流に飲まれながら生還された際は、行政の力を借りて一定程度現地の復旧に目処が立ったら、是非また植樹を再開したいと言われていた。地域の山の整備に思いを持ち、森林組合退職後も色々な方を巻き込んで活動を続けてこられた氏の思いを受け継ぎ、何年か後になろうが、安浦町での植樹活動を再開できるよう共有山保存会や安浦漁協の方と話し合っていきたい。長年に亘って竹原市、呉市での森林整備活動に尽力いただいた中原氏のご冥福を心から祈りたいと思う。

今期実施した活動は以下の通りである。

#### ◆下刈り <6 月 3 日>

広島県呉市安浦町中畑地区(野呂川ダム周辺の山林)の山林(総面積は約 3.0ha で下刈り対象地は約 0.25ha)において 2018 年 1 月に植樹した場所の下刈りを実施した。当日は地元の共有山保存会の有志 8 名ほどが集まり、まだ植えて間もなく雑草の間に隠れている苗木の周囲を中心に刈り払い機を使って草を刈った。

**【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】**

奈良県吉野町の間伐材を原料に布をつくる「結糸」(YOUITO)プロジェクトは、2013 年度(平成 25 年度)からスタートして前期までで 5 年が経過した。担当者が営業に奔走し、大手百貨店からの引き合いで催事に商品を出したり、様々な展示会に出展するなど販路開拓に努力した。しかし、売上げは年額で 100 万円前後に留まり、営業経費をカバーしきれない状況が続いたことから、今期からは積極的な営業活動は行わず、現在ある生地と商品の在庫を徐々に現金化、撤退して行く方針とした。

ブックカバー、ペンケース、ご祝儀袋の 3 商品については、日本橋にある奈良県のアンテナショップ「まほろば館」、フェアトレード商品やオーガニック食品など扱う通販サイト SoooooS(運営会社:<https://soooooos.com/>)などで販売を継続している。また、今期新たに飛騨五木(株)(本社:岐阜県高山市)が名古屋市で運営する moriwaku café(名古屋市中区錦 2-90-20)で販売していただけたとのお申し出があり、少量ではあるが扱っていただくことになった。

期末時点での棚卸商品額は以下の通りとなっている。引き続き在庫の現金化を進めていきたい。

- 商品: 510,898 円
- 生地: 621,913 円



名古屋市にある moriwaku café。店内内装はふんだんに木材を使っている。



## 【生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人 CEPA ジャパン事務局)】

2010 年 10 月に開催の生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において採択された「愛知目標」の短期目標を達成するため、主導的な役割を果たした「生物多様性条約市民ネットワーク」の活動が母体になり「一般社団法人 CEPA ジャパン」が設立された。当法人は CEPA ジャパンからの依頼を受け 2013 年より事務局業務の一部を受託し、今年も地球環境基金助成事業に係わる事務をはじめ、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)主催の生物多様性アクション大賞事務局業務も担っている。

### ●生物多様性アクション大賞 2018 概要●

「国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J)では、国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけている。「生物多様性アクション大賞」は、全国各地で行われている5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化に貢献するもので 2013 年度に創設。2014 年度より UNDB-J と一般財団法人セブン-イレブン記念財団との共催で実施。昨年度より、環境大臣賞、農林水産大臣賞、SDGs 賞が新設されている。

■募集期間: 2018 年 7 月 21 日(土)～2018 年 9 月 3 日(月)

■大臣賞決定・授賞式: 2018 年 12 月 7 日(金) ■URL: <http://5actions.jp/award/>

### ■実施体制

主 催: 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J) 共 催: 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協 賛: 前田建設工業株式会社 セキスイハイム 特別協力: 公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

協 力: 国連広報センター、富士フイルム株式会社、株式会社オルタナ

後 援: 生物多様性自治体ネットワーク、朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社、環境省、農林水産省

事務局: 一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員: 渡邊綱男(IUCN 日本委員会委員長)※審査委員長※、三輪隆(株式会社竹中工務店)、沖修司(国土緑化推進機構)、小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、中川一郎(農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)、中澤圭一(環境省自然環境計画課生物多様性主流化室長)

■応募総数: 100

■環境大臣賞: 「地域循環型野菜を地域共通ブランドに！」おかえりやさいプロジェクト(愛知県)(たべよう部門優秀賞)

■農林水産大臣賞: 「『自分たちの地域と畑は自分たちで守る』くまもと☆農家ハンターの野生鳥獣対策」くまもと☆農家ハンター(熊本県)(まもろう部門優秀賞)

■5部門優秀賞: ふれよう部門・株式会社 JTB(東京都)、つたえよう部門・電機・電子 4 団体環境戦略連絡会(東京都) えらぼう部門・パナソニック株式会社(大阪府)

■特別賞(4 賞): 復興支援賞・NPO 法人森は海の恋人(宮城県)、グリーンウェイブ賞・コクヨ株式会社(大阪府) セブン-イレブン記念財団賞・豊かな海づくり Project-T(福岡県)、SDGs 賞・Blue Earth Project(兵庫県)

■審査委員賞: 糸島コミュニティ事業研究会(福岡県)、気仙沼市立大谷中学校(宮城県)、アトリエ マンセル(東京都)、筑後川まるごと博物館運営委員会(福岡県)、岐阜県立岐阜高等学校自然科学部生物班(岐阜県)、NPO 法人嘉瀬川交流軸(佐賀県)、ジューエルイー合同会社(沖縄県)、NPO 生活工房つばさ・游(埼玉県)

この他 38 団体が入賞



## (2) 海外環境保護事業

### 【ブラジルでの河岸林保全事業】

ブラジルのカウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会 (ASFLORA)」の協力を得て、今年度もアマゾン地域での河岸浸水林保全事業を継続した。2018 年 3 月に国土緑化推進機構(緑の募金)の青木正篤常務を緑の募金の助成(2008 年から 5 年間)により実施したベレン市近郊のサンタ・バルバラ郡でのアグロフォレストリー導入エリアを案内し、その成果(アグロフォレストリーの定着のみならず、地域コミュニティの経済的な向上)で好評価をいただいたこともあり、引き続き緑の募金の助成を得ることができた。本年度 7 月からこの資金を活用し、河岸浸水林地域にアグロフォレストリーを導入したアバエテトゥーバ市近郊のサン・ジョアン・バチスタ入植地で、苗畑施設の設置や、植栽後の管理等への継続的な伴走支援や森林環境教育や啓発活動を行なっている。

#### (苗畑施設概要)

縦 6m×幅 8m×高さ 3.2m(氾濫原であるため苗床となる床面は地表から 1.2mの高さ)



(写真左) 建設中の苗畑施設、氾濫原にあることから高床式である。  
(写真右) 完成した苗畑施設、苗床部はセメントで覆われている。

#### (環境教育実績)

2018 年 12 月 21 日: アバエテトゥーバ市(サン・ジョアン・バチスタ入植地)  
(参加者) 小学校児童、教職員(約 210 名)



(写真上) サン・ジョアン・バチスタ入植地の学校での環境教育風景、児童、教職員約 210 名が集まった。



**(3) バガス(非木材紙)普及事業****【大学の学園祭へのバガスモールド(エコ容器)導入】**

2009 年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす(バガス)を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、約 20 年前から大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、最終的には紙関連業界(卸商や小売店など)に対するバガス(非木材紙)への認知度向上および経済的インセンティブの喚起といった社会的インパクトを目指している。

2012 年から、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りなどの相談にも乗るなどしながら、導入を呼びかけてきたが、昨今の大学生数の減少、環境サークルの解散などで、そもそも大学祭の環境対策に取り組む大学が減ってきている。今後の普及方法については、抜本的な見直しが必要と感じている。

一方、近年、マイクロプラスチックによる海洋生態系汚染の問題が、メディアで頻繁に取り上げられるようになり、市民や地方自治体、民間企業がプラスチックフリーの活動を模索し始めている。本事業においても、この重要な機会を逃さず、未利用バイオマスを有効活用、環境負荷を低減し、持続可能な社会へと牽引していけるプロジェクトへと育てていきたい。2019 年度は普及啓発ツールを制作予定。

**<2018 年度 学園祭でのバガスモールド導入実績(個数)>**

大学名 (日時)	どんぶり		パック		丸皿		平角皿		コップ <sup>o</sup>		モールド <sup>o</sup> 合計	木製 スプーン&フォーク #162、#140 162 mm、157 mm
	MD-3 φ 154 × 54	MD-5 φ 160 × 68	MD-6 φ 135 × 47	MD-7 φ 112 × 45	MP-1 184 × 129 × 44	MP-2 171 × 118 × 37	MM-9 φ 152 × 47	MT-1 200 × 111 × 13	MT-3 200 × 140 × 17	L051 φ 80 × 91		
信州大学 松本キャンパス (10月27~28日)			300								300	
東京農業大学 世田谷キャンパス (11月2~4日)	22,000					19,000			3,600	21,000	65,600	1,500
東京農業大学 厚木キャンパス (11月3~4日)	2,700	2,400	1,400	4,050	3,600	4,200	2,400	3,950	1,550	10,150	36,400	400
合計	24,700	2,400	1,700	4,050	3,600	23,200	2,400	3,950	5,150	31,150	103,700	1,900

**<その他のイベント等>**

顧客名	どんぶり		パック		平角皿	コップ <sup>o</sup>	モールド <sup>o</sup> 合計	木製 スプーン #162 162 mm
	MD-5 φ 160 × 68	MD-7 φ 112 × 45	MP-1 184 × 129 × 44	MP-7 236 × 155 × 44	MT-1 200 × 111 × 13	L051 φ 80 × 91		
足尾に緑を育てる会 (納品日:4/16)	1,200						1,200	
株式会社コーッキング (納品日:5/30)				1,600			1,600	
諏訪湖まんまる祭り (納品日:9/21)		200		200	100	200	700	200
株式会社コーッキング (納品日:10/26)			200				200	
大和建鉄株式会社 (納品日:11/16)						500	500	
合計	1,200	200	200	1,800	100	700	4,200	200

**(4) 環境助成金プログラム支援事業****【環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)】**

パナソニック㈱との協働で実施している、NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPO サポート ファンド』は、新規の公募は 2017 年度で終了としており、2018 年度は継続募集のみを受付けた。助成テーマは変わらず「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」とし、第三者のアドバイザーを導入することで実効性の高い組織課題解決の取り組みを推進し、環境分野の市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進、社会の変革へ貢献することを目指す。

助成への応募数は 7 件(2015 年募集:2 件、2016 年募集:2 件、2017 年募集 3 件)。助成団体の選考プロセスは、8 月 3 日に受付を締め切り、応募のあった 7 件について 3 人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で 9 月下旬に選考委員会を開催、助成先候補として 5 団体に絞り込んだ。9 月下旬～10 月中旬に事務局が助成先候補 5 団体に対し、選考委員会が出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(継続募集ゆえにメールコミュニケーションによる)を実施した。10 月下旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、パナソニック㈱との協議および選考委員長の決裁を得て最終的な助成先として 4 件を選定、計 700 万円の助成を確定させた。

2018 年に本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ 8 団体[助成事業期間: 2018 年 1 月～12 月]からは四半期報告書で助成事業の進捗について報告を受け、7 月上旬に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた計画の変更などを協議した。2019 年 2 月 26 日には、助成先 8 団体を集めて成果報告会(於 パナソニックセンター)を開催、事業成果の発表と共有を行い、今後の活動に対して選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。

**<Panasonic NPOサポート ファンド 2018 年募集事業(継続) 助成先>**

助成団体	所在地	代表者 (役職)	助成額 (万円)
<b>【組織基盤強化事業】(継続 2 年目)</b>			
(特活)足尾に緑を育てる会 「足尾の山の緑化活動により、広範な自然環境の健全化と地域活性化を目指す活動の組織基盤強化」	栃木県	秋野 正峯(会長)	130
(特活)持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会 「持続的な自伐型林業推進に向けた事業推進基盤及び広報 PR 組織基盤強化」	東京都	中嶋 健造 (代表理事)	200
(特活)山村塾 「農家が主体となった都市農山村連携事業を継続するための組織基盤強化」	福岡県	宮園 福夫 (理事長)	200
<b>【組織基盤強化事業】(継続 3 年目)</b>			
(認定)JUON NETWORK(樹恩ネットワーク) 「より多くの人が活躍するための組織基盤強化」	東京都	生源寺 眞一 (会長)	170
助成総額 (4 団体)			700



### 【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成25年5月より、省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家発電設備(コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む)の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、両者とも補助金の交付は終了している。平成30年度は前年度に引き続き、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しなどの業務を行ない、自家発電設備導入促進事業において取得財産の処分事案が1件発生し、これに対応した。

平成27年5月に交付決定の取消を行ない、補助金(5億円)の返還を求めているテクノ・ラボ(株)の事案については、当時の同社の実質経営者であった岡登和得氏への刑事裁判は最高裁での有罪判決が確定した。

- 判決確定日：平成30年8月28日
- 裁判結果等：上告棄却(懲役8年、罰金300万円)
- 罪状：関税法違反、消費税法違反、地方税法違反、私電磁的記録不正作出・同供用、詐欺

これを受けて、資源エネルギー庁と協議の上で、平成30年12月25日、テクノ・ラボ(株)に対しての5億円の補助金返還等に伴う民事訴訟を提訴。現在、本事案を委任している顧問弁護士の石井邦尚氏、事務局を委託していたみずほ情報総研(株)と協力し、公判前整理前手続きに対応している。

#### 【財産処分の状況】

##### ガスコージェネレーション推進事業(事務局：(一社)都市ガス振興センター)

- 財産処分の報告があった件数： 0件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

##### 自家発電設備導入促進事業(事務局：みずほ情報総研(株))

- 財産処分の報告があった件数： 1件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 1,561,866円

### 【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成26年2月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後5年間、補助事業者の毎会計年度終了後90日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成27年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成28年度より収益状況報告書の收受、確認の業務を行なっている。

平成30年度は平成31年3月末までに38件の収益状況報告書を收受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分の事案が2件発生した。いずれも補助金により取得した機器や設備を大学や関係企業に無償貸与するもので、補助金の返還は伴わない事案として資源エネルギー庁への報告を行なった。

#### 【財産処分の状況】

- 財産処分の報告があった件数： 2件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

## 2018 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

### ■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



#### ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



#### 株式会社 パックタケヤマ

商品売上げの一部で国内森林保全活動をご支援いただいています。



\* W A S A R A

#### 株式会社 WASARA

国内・海外の環境保全活動をバガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



#### 株式会社 荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

#### 服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。



#### 株式会社 バリュープランニング

海外環境保全活動(ブラジル・アマゾンの熱帯雨林再生)に、キャンペーン期間中の売上げの一部をご寄付いただきました。



■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛

## 株式会社 エディオン

### 株式会社 エディオン

国内森林保全活動(奈良・広島)に、ご協賛・ご参加頂いています。

### サイタ工業株式会社

国内森林保全活動(埼玉)に、ご協賛・ご参加頂いています。



### 前田建設工業株式会社

国内森林保全活動(全国)に、ご協賛・ご参加頂いています。

※ 社員と家族の環境活動を推進する社内エコポイント制度 Me-pon で貯めたポイントの交換先として、有志の方々から寄付をいただいています。

■ ポイントプログラムを通じたご寄附・ご支援



### Gooddo (グッドウ)

社会貢献を身近にするプラットフォーム。WEB サイトでのクリック数をポイント化したご寄附をいただき、国内の森林保全活動に活用させていただきます。

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

平成31年度(令和元年度)事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

(1) 国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業 ..... P2
- ・ 千葉 君津市、木更津市での植樹地メンテナンス事業 ..... P3
- ・ 埼玉 飯能市での森林整備事業 ..... P4
- ・ 静岡 川根本町での森林整備事業 ..... P5
- ・ 静岡 静岡市梅ヶ島地区での森林整備事業 ..... P6
- ・ 奈良 吉野町での間伐／PAL植樹地整備事業 ..... P7
- ・ 広島 竹原市での植樹メンテナンス事業 ..... P8
- ・ 子ども自然体験事業 ..... P9
- ・ 新規植樹地調査 ..... P10
- ・ 間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト) ..... P11
- ・ 生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人CEPAジャパン事務局) ..... P12

(2) 海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの河岸林保全事業 ..... P13

(3) バガス(非木材紙)普及事業

- ・ バガス普及啓発事業(大学学園祭へのモールド導入) ..... P14

(4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド) ..... P15
- ・ 分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁) ..... P16
- ・ 廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁) ..... P17

◆2019年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧 ..... P18



## 1) 国内森林保全事業

### 【岩手・西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

8月3日(土)、岩手県和賀郡西和賀町にあるザ・パックフォレスト活動第1号地において、地元の「西和賀森づくり隊」のメンバーを中心に、植樹地の下刈りを行なった。

下草は、県道から植樹地へアクセスする私道は自動車を通れないほどに繁茂していた。私道、植樹地やザ・パックフォレストの看板周辺を中心に刈り払い機を使って作業を実施した。また今回は、隣地の大きなクリの木が覆い被さるように茂っていたため、長い柄の特殊なノコギリを使って、高い枝を切る作業を念入りに行った。柄は節で分解可能で、段階的に高所の枝を切ることができる。

今後も年に1回、地元の方々と交流しながら、植樹地の整備、維持に努めていきたい。





## 【千葉県君津市「四季彩(しきさい)の森」&「豊果(ゆたか)の森」の育林活動】

君津市の植樹地「四季彩(しきさい)の森」(2007～2009)と「豊果(ゆたか)の森」(2008)は、植栽後から丁寧に育林を続けて 10 年以上が経ち、いずれの苗木も強く大きく成長していることを確認することができた。

### ◆君津市「豊果(ゆたか)の森」 <4 月 20 日>

参加者は EFF3 名(高橋、美濃部、大垣内)+5 名。平地部および傾斜地部の草刈り、サブリガードの撤去回収(平地部道路側の枯死したもの)を実施した。また、アメリカシロヒトリ(チョウ目ヤガ上科トモエガ科)の幼虫が巣を作り、弱ってしまっているウメの苗木が多くあったため、その部分を火で炙り、取り除いた。

コンディションの悪い土壌への植栽だったことから、平地部の一部の苗木の生長が遅れていたが、だんだんと活着が進み、順調に生育できるようになった。後日、大垣内が友人たちを連れて、ウメ狩りに訪れている。収穫したウメは梅酒にして、活動メンバーで山林の再生を喜んだ。継続して、丁寧に育てていきたい。



豊果(ゆたか)の森



アメリカシロヒトリの幼虫の巣

### ◆君津市「四季彩(しきさい)の森」 <4 月 20 日>

豊果(ゆたか)の森の作業の後、同じメンバー(EFF3 名+5 名)で、四季彩(しきさい)の森に、車を走らせた。カツラ、オニグルミ、クリなどはサブリが膨らむほど太く生長しているが、それらに比べて、トチは生長が少し遅いようだ

苗木の生長の障害となるアブラギリを伐採し、また、生長が著しい苗木の膨らんだサブリガードを外す作業(計 40 本ほど)、資材廃棄物の片付けを行った。生育状況は大変良好である。

ヒル被害を避けるため、4 月実施としたことが功を奏し、豊果(ゆたか)の森、四季彩(しきさい)の森、両サイトともヒルが少なかった。ただし、美濃部がマダニに咬まれた。病院で治療を受け、大事には至っていない。



四季彩(しきさい)の森

## 【千葉県木更津市「皆登里(みどり)の森」の育林活動】

同地は、最後の植栽活動(2015 年 3 月補植)が終了して、5 年が経過している。以降、毎年夏から秋にかけて下草刈りと苗木のメンテナンス活動を続けてきている。

### ◆木更津市「皆登里(みどり)の森」 <6 月 30 日>

参加者は EFF1 名(高橋)+4 名。午前中に看板手前部分(平坦部)から草刈りを始め、斜面(植林部分)は左から右方向へと刈り進めた。午後は平地部の草刈りを 2 人で、残りの 3 人で苗木近くの竹とアブラギリを伐採して陽を当てる作業に取り組んだ。また、枯死した苗木の資材(サブリガードや支柱)を片付けた。

1, 2 年目の苗木(斜面上部)は昨年以下草刈りをしなかったため、灌木が生い茂り進入が困難だった。後期植林地(斜面下部から右奥方向)は下草刈りをしているため、植林木を確認しながら作業を進めることができた。幹を切られた苗木もヒコバエが出て健気に生きている。右奥は圧倒的に生長の早い竹やアブラギリが繁茂し始めており、今後の対応を検討したい。



皆登里(みどり)の森



## 【埼玉・飯能市での森林整備事業】

埼玉県飯能市での保全活動も 8 年目を迎えた。2019 年度も、サイタ工業株式会社の協賛を得て、植樹地の草刈り活動に取り組んだ。

### ◆草刈り活動

活動日：2019 年 7 月 13 日

活動場所：埼玉県飯能市白子の植樹地

参加者：EFF3 名(高橋、美濃部、大垣内)、一般ボランティア 6 名(協賛企業の社員 1 名を含む)、セミプロ 3 名

入山して向かって右手斜面の植樹地(1~2 年目)は、美濃部と大垣内＋一般ボランティア 6 名が長柄鎌を使い、一方、左手斜面の植樹地(3~5 年目)については右手斜面よりも若干急峻になるため、高橋とセミプロ 3 名が刈り払い機で、苗木周辺の下草を刈っていった。

一般ボランティアの担当とした右手斜面も、左手斜面ほどではないが急な坂と、いたるところにある棘のある植物に阻まれ、作業はかなりの重労働になった。次年度以降、一般ボランティアの活動内容については見直しが必要と考える。結局、一般ボランティアの手では右手斜面の下草を全て刈ることができず、途中で断念した。作業を午前中に終えて、植樹地下のスペースにブルーシートを広げ、みんなで昼食(おにぎり)の後、一般ボランティアは和紙染めと間伐材うちわづくりのワークショップを楽しんだ。

※ ワークショップは小学生以下の子ども向けに準備していた企画だったが、小学生の参加はゼロだった。

右手斜面の刈り残した草は、イベント終了後に、居残った高橋＋セミプロ 3 名によって刈り払い機できれいに刈られ、苗木の生育を補うことができた。





【静岡・川根本町での森林整備事業】

◆ 大井川の水源涵養能の向上を目指した森林保全事業「川根 GREEN PARTY」【間伐編】

11月23日(土)に、中外製薬㈱の協賛を得て、大井川の水源涵養能と強い保土力の向上を目的に、地元NPOのかわね来風との共催で間伐体験イベント「川根 GREEN PARTY」【間伐編】を実施した。主な参加者は中外製薬㈱の藤枝工場の社員の皆さまとそのご家族で、計29名(うち小学生の子ども10名)が日頃は足を踏み入れることのない山林での非日常体験に汗を流しながら、山林の整備に取り組んだ。

当日の朝の天気予報まで雨天の予報だったため、活動できるかどうか心配されたが、当日を迎えてみれば快晴で、大変良好な気候の中で実施することができた。間伐体験活動は少なからず危険も伴うため、小学生が木を伐る際は十分に注意を払い、地元林業家の指導を仰ぎながら取り組んだ。活動中も、また活動後のお弁当の時間も参加者の笑顔が絶えず、良い体験を提供できてとても良かったと思う。



生まれてはじめて、木を伐っています。



みんなで記念写真。がんばりました！

全国各地で森林の保護や利活用促進に励む「地球と未来の環境基金」(東京)活動に取り組むイベント

### のこぎりギコギコ 間伐体験 川根本町で NPO イベント

間伐作業に汗を流す参加者 川根本町水

ト「川根グリーンパーティー」を川根本町水川の山林で実施した。同町のNPO法人かわね来風が共催し、藤枝市に工場を持つ中外製薬の社員と家族約30人が参加した。参加者はヘルメットと軍手を着用し、急な斜面に注意しながら間伐に取り組んだ。のこぎりで木に受け口を入れてロープで引張る作業を繰り返して、スギやヒノキ計約60本を伐採した。

イベントは2013年から同町で毎年行われ、これまで季節に応じて植林や草刈りなども実施している。

11/27 静岡新聞



◆ 山林の保水力・保土力向上と大井川の再生のための森林保全事業「川根 GREEN PARTY」【草刈編】

8月17日(土)に、地元林業家の指導のもとで、静岡県内の若者8名(うち、地元高校生3名)、中外製薬㈱より3名のボランティア計11名を集めて、2014年の植樹地(田野口)の下草刈、サプリガードのメンテナンス作業を行った。地元林業家の指導のもとで実施したので大きな怪我は無かったが、2名がヒルに咬まれて流血した。苗木の生育は順調だが、まだ細い木が多く、引き続き丁寧な育林に努めていきたい。



「第2回川根 GREEN PARTY」の植樹地(田野口)



リピート率の高い若者ボランティア

【静岡・静岡市梅ヶ島地区での森づくり事業】

◆ 持続的な森林保全の基盤づくりを目指した市民とステークホルダー連携による森づくり事業

11月5日(火)、積水ハウスマッチングプログラムの助成を受け、安部川源流地である静岡市最奥部の梅ヶ島地区の山林で、積水ハウス㈱の社員を対象に間伐体験イベント「梅ヶ島 GREEN PARTY」を開催した。参加者は全14名で、静岡支社と藤枝支店の社員、また、社員の子ども(2歳と6歳の女儿)だった。

作業は3班に分かれ、それぞれに地元林業会社の鈴木林業㈱の社員が指導者としてつき、安全の徹底、丁寧な説明を受けながら、約2時間の間伐作業に没頭した。鈴木林業㈱による大径木の伐倒のデモンストレーションも行われ、参加者には林業の専門的技術指導を受けながら、厳しい間伐作業を体験し、森林保全の重要性を深く学んでいただくことができた。



女子社員も、出際良く間伐できました！



デモンストレーションで伐倒した大径木の切り口を覗き込む



## 【奈良・吉野町での間伐／PAL 植樹地整備事業】

### ◆ 元気森・MORI in 吉野山

11 月 16 日(土)、奈良県吉野山で、一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐体験活動「元気もり・MORI in 吉野山」を実施した。毎年恒例のイベントで、町内外から、リピーターを含む多くの参加者に集まっていた。全 7 班に分け、各班の林業専門家の指導のもと吉野の山の森林整備に汗を流した。

まず、伐る木を選び(選木)、倒す方向を決め、縄を木にかけ、腕の反動で上へ上げていく。ベテランボランティアは、一年ぶりの縄上げも慣れた手付きだ。鋸で 3 分の 1 程度の切込みを入れた後は、反対側から鋸で切っていく、ある程度のところで縄を引っ張って木を倒す。

作業終了後には、参加者全員で、大変暖かい日の中、配給を受けた豚汁とおにぎりで一息をつき、各々の活動成果について語らい、交流した。昼食後は、吉野の間伐材を材料にしたベンチを制作した。吉野山では観光客が一息つくためのベンチが劣化、不足しており、観光振興のために有効に活用されて大変うれしい。



まずは受け口を作る作業から



ボランティアによる縄掛け

#### <実施概要>

日時：2019 年 11 月 16 日(土) 場所：奈良県吉野郡吉野町 近鉄吉野駅の目の前  
活動：間伐予定地 1ha(40 年生スギ・ヒノキの混合林)のうち 1ha の山林の 20%(約 120 本)の間伐

#### <参加者> 68 名

ザ・パック(株)、(株)エディオン、吉野中央森林組合、吉野山林業研究会、吉野山自治会、一般参加の皆様、NPO 法人地球と未来の環境基金

### ◆ 世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業

2010 年 11 月より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL/フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

2019 年は植樹地の下草刈り、枯れた苗木の植え替え、鹿の食害防除ネット(サプリガード)の補修作業を実施した。



(株)パルの嶋尾博光さん(執行役員)もいっしょに

#### <実施概要>

日時：2019 年 11 月 9 日(土)  
活動：2010～2013 年に植栽した苗木周辺の下草刈りとメンテナンス

#### <参加者> 34 名

(株)パル、ザ・パック(株)、吉野中央森林組合、NPO 法人地球と未来の環境基金



## 【広島・竹原市での植樹地メンテナンス事業】

竹原市のフォレスト活動は、今年度は植樹地(竹原市有林)での下刈り活動に加えて、「平成 30 年 7 月豪雨」によって土砂が流出、斜面の崩落などが発生したバンブー公園付近の山林での植樹を実施した。

既存植樹地の下草刈りはいつものように地元の竹原高校の生徒やザ・パック社員ボランティアの協力を得て、尾三地方森林組合の指導の下で実施した。また、植樹については、当初の事業計画にはなかったが、尾三地方森林組合から土砂崩れの発生した所がそのまま放置されており、地元の災害復興を後押しする形で実施できないかとの打診があり、夏から準備を進めた。しかしながら、年末から徐々に広がった新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、2 月 27 日に政府から大規模イベントの自粛要請が出されたこともあり、ザ・パックと協議した結果一般ボランティア参加での植樹イベントは中止とした。一方、植樹場所の地拵えや苗木の調達には既に終わっていたこともあり、苗木は尾三地方森林組合に委託して植え付けを行なっていただいた。それぞれの概要は下記の通りである。

### 1. 下草刈

- 日時： 2019 年 8 月 24 日(土)午前 8 時～11 時半
- 場所： 竹原市小梨町の植樹地(市有地、約 0.6ha)
- 参加者： 竹原高校の生徒・教員(11 名)、ザ・パック社員(4 名)、  
竹原市役所職員(5 名)、尾三地方森林組合・関係者(10 名)、EFF(2 名) 以上計 32 名

### 2. 植樹（※植樹イベントは中止となったので、植樹内容を記載）

- 場所： 竹原市高崎町の山林(市有地、約 0.2ha)
- 植付本数： モミジ 600 本



(写真左) 下刈り活動に参加した竹原高校のボランティアの皆さん。

(写真右) 平成 30 年豪雨で流れた山林跡地。新型コロナウイルス拡大で植樹イベントは中止となり、森林組合に委託して、準備した苗木 600 本を植付けた。

## 【子ども自然体験活動／自然の恵みを五感で感じる「親子農体験」活動】

### ◆社会背景と企画試行のねらい

消費サービス中心の都会に住む子ども達にとって、自然へのふれあいや外遊びの経験が不足しがちである。お金があればなんでも買ってしまう現代社会において、自分が食べるモノを作る生産者側になる経験もほとんどできない。そこで「あぶない／きたない／うるさい」が許されにくい不寛容な社会を生きる子ども達が、畑をフィールドに、自然の中で五感を拓きながら体感することを目的に親子農業体験を行った。

### ◆当日概要

【日時】 2/1(土)10:00～16:00      【場所】 千葉県佐倉市内 小出農園 / やとみ公民館

【参加者人数】 20 名(うち EFF スタッフ 2 名、小出農園関係者:6 名)

### ◆プログラムの流れ

【午前】 古くからの日本の知恵伝承「ソウルフードみそづくり」

- ・小出農園さんによる大豆と発酵を促すお米のお話 / お米と仲良しになる紙芝居
- ・手前味噌ソングを歌いながら、みそづくり

【午後】 節分直前！子どもも大人もごちゃまぜ鬼ごっこで全体交流

9・10月の台風の影響で受け入れ団体の農園も大きな被害を受け、3回予定していた内容のうち1回実施となった。企画における重要なポイントは2点ある。1点目は、親子で楽しむ創意工夫として、遊びの要素を盛り込んだこと。具体的には、小出農園さんが大豆を育てる様子を映像で伝えてくださったことに加え、紙芝居で発酵を促すお米の歴史を知る機会があったこと。2点目は、誇りを持って農業を営む人の存在を伝える工夫をしたこと。日頃から「自然が育てた野菜とお米を子どもたちへ」を掲げている小出農園さんとの取り組みだからこそ、地域の方々との交流も持つことができた。事前準備から意見交換し企画を練りあげ、充実した時間を作ることができた。

### ◆参加者の声

- ・娘にとって貴重な機会となった。心が広く遊び心が満載、大人も真剣に遊ぶ姿が子どもたちに伝わったと思う。見たこともない笑顔が飛び出した。
- ・「子育ては孤独じゃない。大人みんな育てる」を感じられる一日だった。農業を営む皆さんに親子ともども甘えさせて頂き、まさにプライスレス！貴重な1日となった。

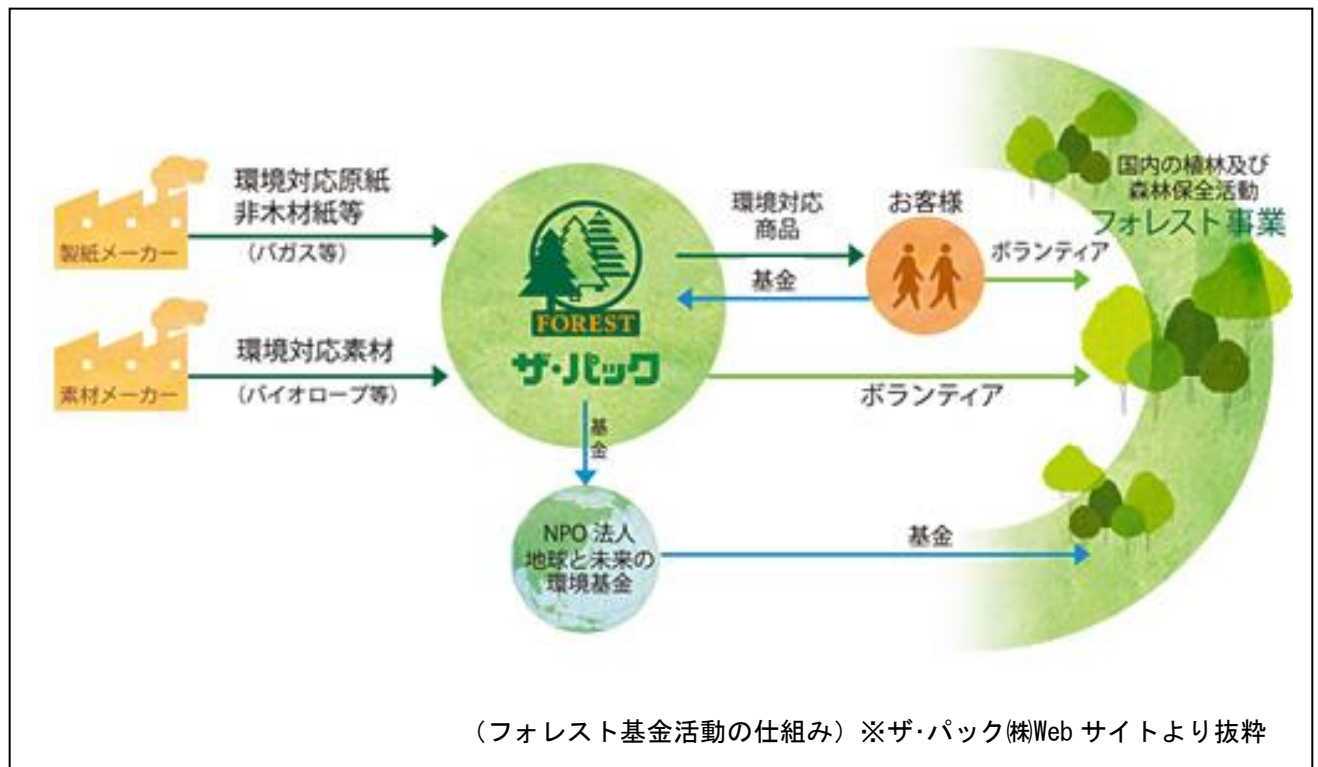


【新規植樹地調査】

当団体ではザ・パック㈱から委託を受けて、フォレスト基金の管理・運営を行っている。ザ・パック㈱との協働で取り組むフォレスト活動は、現在までに 1 号地(岩手県西和賀町)、2 号地(奈良県吉野町)、3 号地(沖縄県恩納村)、4 号地(広島県竹原市)、5 号地(千葉県君津市)、6 号地(大阪府高槻市)、7 号地(埼玉県日高市)、8 号地(大阪府四条畷市)と 8 つの森林整備を展開して来た。

フォレスト基金は包装資材メーカーであるザ・パック㈱が顧客に販売する商品の売り上げの一部が拠出されており、フォレスト活動はこの基金を活用して実施されている。また、基金を活用した新たな活動や植樹地の提案が求められることがあり、ザ・パック㈱からの依頼に応じて調査、提案などを行っている。

今年度はアパレルブランドを展開する顧客とのタイアップ企画の提案や、ザ・パック社員とその顧客企業社員が合同で森林整備を行う活動の可能性調査として、依頼のあった地域での行政等の Web サイト、報告書など二次情報を検索、調査を進めた。具体的な活動地の現地折衝については、年明けの新型コロナウイルス感染拡大を受けて、地域へ出向くことが難しくペンディングとなっているが、感染収束後はザ・パック㈱側とも協議しながら、新しい森林整備の活動調査を行って行く。





## 【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

奈良県吉野町の間伐材を原料で製造した「結糸」(YOUITO)は、引き続き既存の販売先等に対して在庫商品を販売して行くことに限定して対応した。

ブックカバー、ペンケース、ご祝儀袋の3商品については、日本橋にある奈良県のアンテナショップ「まほろば館」、フェアトレード商品やオーガニック食品など扱う通販サイト SoooooS(運営会社: <https://soooooos.com/>)で販売を継続しており、昨年から新たに飛騨五木(株)(本社: 岐阜県高山市)が名古屋市で運営する moriwaku café(名古屋市中区錦 2-90-20)で販売していただいている。細々とではあるが、在庫の出荷を行った。

また、事務所を間借りすることで平素からお世話になっている(株)パノコトレーディングの紹介で、生協等へ生活雑貨を販売している「生活アートクラブ」から、結糸の生地を使った製品の開発を行い、生協等へ提案してみたいとの打診があり、12月に生地サンプルを出荷した。年明けからの新型コロナウイルス感染拡大などがあつた影響もあり、製品開発は少し停滞している模様だが、少しでも在庫にある生地が活かせることを期待している。

期末時点での棚卸商品額は以下の通りとなっている。

■商品: 502,019 円

■生地: 613,577 円

引き続き在庫の現金化を進めて行く。



販売継続中の3アイテム  
ブックカバー（左上）、ご祝儀袋（右上）  
ペンケース（左下）

## 【生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人 CEPA ジャパン事務局)】

2010 年 10 月に開催の生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において採択された「愛知目標」の短期目標を達成するため、主導的な役割を果たした「生物多様性条約市民ネットワーク」の活動が母体になり「一般社団法人 CEPA ジャパン」が設立された。当法人は CEPA ジャパンからの依頼を受け 2013 年より事務局業務の一部を受託し、今年も地球環境基金助成事業に係わる事務をはじめ、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)主催の生物多様性アクション大賞事務局業務も担っている。

### ●生物多様性アクション大賞 2019 概要●

「国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J)では、国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけている。「生物多様性アクション大賞」は、全国各地で行われている5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化に貢献するもので 2013 年度に創設。2014 年度より UNDB-J と一般財団法人セブン-イレブン記念財団との共催で実施。2017 年度には、環境大臣賞、農林水産大臣賞、SDGs 賞が新設されている。



■募集期間: 2019 年 7 月 26 日(金)~2019 年 9 月 17 日(火)

■大臣賞決定・授賞式: 2019 年 12 月 5 日(木) ■URL: <http://5actions.jp/award/>

#### ■実施体制

主 催: 国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J) 共 催: 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協 賛: 前田建設工業株式会社、セキスイハイム、株式会社 JTB 協 力: 富士フイルム株式会社、株式会社オルタナ

特別協力: 公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

後 援: 環境省、農林水産省、生物多様性自治体ネットワーク、朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社

事務局: 一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員: 渡邊綱男(IUCN 日本委員会委員長) ※審査委員長※、三輪隆(株式会社竹中工務店)、小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、沖修司(国土緑化推進機構)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、久保牧衣子(農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)、山本泰生(環境省自然環境計画課生物多様性主流化室長)

■応募総数: 91

■環境大臣賞: 「エコガイドカフェ」ノータッチサンゴ(沖縄県)(つたえよう部門優秀賞)

■農林水産大臣賞: 「伝統食材「あかじゃが」「アワバタダイズ」を活用した地域振興プロジェクト」  
群馬県立勢多農林高等学校 植物バイオ研究部(群馬県)(たべよう部門優秀賞)

■5部門優秀賞: ふれよう部門・川名里山レンジャー隊(神奈川県)、まもろう部門・オオタカ保護基金(栃木県)  
えらぼう部門・株式会社スマイリーアース(大阪府)

■特別賞(4 賞): 復興支援賞・網地島ふるさと楽好(宮城県)、SDGs 賞・愛知商業高等学校ユネスコクラブ(愛知県)、  
セブン-イレブン記念財団賞・熊本県立岱志高等学校理科部(熊本県)、  
グリーンウェイブ賞・株式会社アキュラホーム ウッドストロープロジェクト(東京都)

■審査委員賞: 上西郷川日本一の郷川をめざす会(福岡県)、環境ネットワーク「虹」(福岡県)、特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク(東京都)、社会福祉法人埼玉のぞみ園 深谷たんぼぼ(埼玉県)、生物多様性びわ湖ネットワーク(滋賀県)、中越パルプ工業株式会社(東京都)、登米市立米谷小学校(宮城県)、なごや生物多様性保全活動協議会(愛知県)、新潟市(新潟県)

この 他 37 団体が入賞



## (2) 海外環境保護事業

### 【ブラジルでの河岸林保全事業】

ブラジルのカウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会(ASFLORA)」の協力を得て、今年度もアマゾン地域での河岸浸水林保全事業を継続した。今年度は引き続き国土緑化推進機構(緑の募金)の助成が得られ、アバエテトゥーバ市近郊の島嶼部にあるベルミー口集落(9 家族、43 人)で、浸食により崩落、流出した河岸林の復元や、地域の生活向上のための支援を行なった。

当該地域の世帯あたりの月の収入はおおよそ R\$800(約 16,000 円)で、国の定めた最低給与 R\$1,045(約 2 万円、2020 年 2 月水準)にも満たない貧困地域である。かつて 19 世紀の奴隷制度があった時代、逃亡した奴隷が隠れ住んだ地域で、こうした地域は州や市からの農業指導などの行政の支援も及んでおらず、収入の多くは国の支給する家族手当に頼っている。耕地は、協働方式でマンジョカ、トウモロコシ、フェジョン(豆)を焼き畑方式で植え、僅かながら肉鶏の養鶏が行われていて、自給を主としている。

このベルミー口集落でも河岸林においてアサイ椰子を増殖しており、河岸の土砂が流出するなどしており、その河岸林を回復させるため ASFLORA のスタッフや実習生が集落の住民とともに 38 樹種、1 千本の植樹を行なった。また、プラスチックゴミの問題はこうしたブラジルの奥地でも深刻で、森林保全の大切さも含めた形での環境教育を実施した。



(写真左)ベルミー口集落で土砂が流出した川岸。放置しておくと浸食が進んでしまう。



(写真右)地元の住民が参加して、苗木を植え付ける。小さな子どもたちも熱心に取り組んでいる。



(写真左)ベルミー口集落の川岸の植樹地



(写真右)住民が森の中に入って、Asflora スタッフの指導により環境教育を受けている



### (3) バガス(非木材紙)普及事業

#### 【大学の学園祭へのバガスモールド(エコ容器)導入】

2009年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす(バガス)を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、約20年前から大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、最終的には紙関連業界(卸商や小売店など)に対するバガス(非木材紙)への認知度向上および経済的インセンティブの喚起といった社会的インパクトを目指している。

2012年から、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りなどの相談にも乗るなどしながら、導入を呼びかけてきたが、昨今の大学生数の減少、環境サークルの解散などで、そもそも大学祭の環境対策に取り組む大学が減ってきている。

そのような状況下、2019年度は3つの大学祭でバガスモールドを利用していただいた。東京農業大学2キャンパスに限っては、上記のように環境活動に励む学生が総体的に減っているにもかかわらず利用数(注重量)が多い。それは、環境活動学生(環境サークルのメンバー)に限らず、一般の学生であっても環境意識が高いためだろう。

また、2019年度は新しい取り組みとして、認定NPO法人JUON NETWORKと連携して間伐材割り箸をラインナップ、販売をスタートさせた。初年度は僅かだったが、今後、バガスモールドと合わせて普及させていきたい。

また、近年では、マイクロプラスチックによる生態系汚染の問題が各種メディアで頻繁に取り上げられ、一般市民だけでなく、地方自治体、民間企業もプラスチックフリーの動きを強めている。さらに、2020年初頭からの新型コロナウイルスの世界的大流行の影響で、今後、ワンウェイ容器のニーズが高まることが予想される。ただ、イベント自体の自粛・縮小の方針はしばらく続くと思われる、今年度は総合的にはモールドの利用頻度は減るだろう。来年度(2020年度)は、社会が正常化し、日常に戻った時に市民が「ワンウェイの容器にするならバガスモールド」と社会に印象付けさせる好機の1年間と捉え、2019年度中に開発できなかった普及啓発ツール(SNS広告用の動画)の制作に取り組みたい。

#### <2019 年度 学園祭等でのバガスモールド導入実績(個数)>

大学名 団体名 (日時)	どんぶり				パック		丸皿	平角皿		コップ	モールド 合計	間伐材 割り箸	木製 スプーン フォーク
	MD-3	MD-5	MD-6	MD-7	MP-1	MP-2	MM-4	MT-1	MT-3	L051			
	φ 154 × 54	φ 160 × 68	φ 135 × 47	φ 112 × 45	184 × 129 × 44	171 × 118 × 37	φ 180 × 17	200 × 111 × 13	200 × 140 × 17	φ 80 × 91			
足尾に緑を 育てる会 (納品日:4/25)		2,000									2,000		
信州大学 松本キャンパス (11月3,4日)							150				150		
東京農業大学 世田谷キャンパス (11月1~3日)	7,600					22,800			5,200	12,000	47,600		3,500
東京農業大学 厚木キャンパス (11月2,3日)	4,300	2,550	1,600	4,350	1,600	6,300	1,500	2,000	1,700	6,700	32,600	4,200	1,200
合計	11,900	4,550	1,600	4,350	1,600	29,100	1,650	2,000	6,900	18,700	82,350	4,200	4,700

#### （4）環境助成金プログラム支援事業

##### 【環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)】

パナソニック㈱との協働で実施している、NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPOサポート ファンド』は、新規の公募は2017年度で終了としており、2018年度に引き続き2019年度は継続募集(継続募集も今期で最後となる。)のみを受付けた。助成テーマは変わらず「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」とし、第三者のアドバイザーを導入することで実効性の高い組織課題解決の取り組みを推進し、環境分野の市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進、社会の変革へ貢献することを目指す。

助成への応募数は5件(2016年募集:2件、2017年募集3件)。助成団体の選考プロセスは、8月2日に受付を締め切り、応募のあった5件について3人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で9月上旬に選考委員会を開催、助成先候補として2団体に絞り込んだ。9月中旬に事務局が助成先候補2団体に対し、選考委員会で出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(継続募集ゆえにメールコミュニケーションによる)を実施した。10月上旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、パナソニック㈱との協議および選考委員長の決裁を得て最終的な助成先として2件を選定、計350万円の助成を確定させた。

2019年に本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ4団体[助成事業期間:2019年1月~12月]からは四半期報告書で助成事業の進捗について報告を受け、6月下旬~7月上旬に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた計画の変更などを協議した。2020年2月18日には、助成先4団体を集めて成果報告会(於 パナソニックセンター)を開催、事業成果の発表と共有を行い、今後の活動に対して選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。

##### <Panasonic NPOサポート ファンド 2019年募集事業(継続) 助成先>

助成団体	所在地	代表者(役職)	助成額(万円)
<b>【組織基盤強化事業】(継続3年目)</b>			
(特活)持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会 「日本の森林を守る自伐型林業者の全国定着に向けた 情報発信・人材育成・経営環境基盤強化事業」	東京都	中嶋 健造 (代表理事)	200
(認定)自然環境復元協会 「レンジャーズプロジェクトを起点とした組織の基盤強化」	東京都	石川 晶生 (理事長)	150
助成総額 (2団体)			350



## 【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成25年5月より、省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家発電設備（コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む）の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、両者とも補助金の交付は終了している。平成30年度は前年度に引き続き、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しなどの業務を行ない、自家発電設備導入促進事業において取得財産の処分事案（合併に伴う地位の承継）が1件発生し、これに対応した。

平成27年5月に交付決定の取消を行ない、補助金（5億円）の返還を求めているテクノ・ラボ(株)の事案については、当時の同社の実質経営者であった岡登和得氏への刑事裁判が平成30年8月28日に最高裁で有罪判決が確定、これを受け平成30年12月25日、テクノ・ラボ(株)に対しての5億円の補助金返還等に伴う民事訴訟を提訴した。これについては、令和2年3月13日東京地方裁判所において、当方の主張が概ね認められる判決を得た。

現在、本事案を委任している顧問弁護士の石井邦尚氏、事務局を委託していたみずほ情報総研(株)と協力し、強制執行手続きの準備を進めている。

### 【財産処分の状況】

ガスコージェネレーション推進事業（事務局：（一社）都市ガス振興センター）

- 財産処分の報告があった件数： 0件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

自家発電設備導入促進事業（事務局：みずほ情報総研(株)）

- 財産処分の報告があった件数： 1件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 0円

**【廃炉・汚染水対策事業費補助金】**

当法人では、平成26年2月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後5年間、補助事業者の毎会計年度終了後90日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成27年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成28年度より収益状況報告書の收受、確認の業務を行なっている。

平成31/令和元年は令和2年3月末までに38件の収益状況報告書を收受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。

また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分の事案が4件発生した。うち2件は補助金により取得した機器や設備を大学や東京電力廃炉資料館に無償貸与するもので、補助金の返還は伴わない事案として資源エネルギー庁への報告を行なった。また、他2件は廃炉汚染水処理の技術開発に係る実規模試験施設を廃棄処分する際の鋼材(屑鉄)を処分する事案で、一定額の処分収益が発生したことから、補助事業者に対して収益の基金への納付を行わせた。

加えて、補助事業者が補助金を活用した事業において、不適切な労務費の計上が発覚、一部交付決定の取り消しを行い、一部補助金の返還を行わせた。

**【財産処分の状況】**

- 財産処分の報告があった件数： 2件
- 財産処分に伴う補助金の返納額： 10,547,042円

【交付決定の一部取り消しによる基金への返納額】 1件(1,343,267円)



## 2019 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

### ■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



#### ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



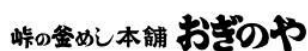
#### 株式会社パックタケヤマ

商品売上げの一部で国内森林保全活動をご支援いただいています。



#### 株式会社 WASARA

国内・海外の環境保全活動をバガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



#### 株式会社荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

#### 服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。



#### 株式会社バリュープランニング

海外環境保全活動(ブラジル・アマゾンの熱帯雨林再生)に、キャンペーン期間中の売上げの一部をご寄付いただきました。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛

## 株式会社 エディオン

### 株式会社 エディオン

国内森林保全活動(静岡・川根本町)に、ご協賛・ご参加頂いています。



### 中外製薬株式会社

国内森林保全活動(静岡・川根本町)に、ご協賛・ご参加頂いています。



# 平成29年度 貸借対照表

平成30年3月31日現在

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金  
(単位:円)

科目・摘要	金額		
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	10,503,847		
未収金	9,358,941		
棚卸資産	1,209,584		
前払費用	234,144		
仮払金	1,000,000		
流動資産合計		22,306,516	
2. 固定資産			
(有形固定資産)			
什器備品	15,228		
リース資産	572,670		
	587,898		
(投資その他の資産)			
保証金	600,000		
出資金	230,772		
預り基金特定資産	63,690,177		
	64,520,949		
固定資産合計		65,108,847	
資産の部合計			87,415,363
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	2,021,967		
短期借入金	8,600,000		
預り金	4,208,208		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		14,900,175	
2. 固定負債			
リース債務	572,670		
預り基金	63,690,177		
固定負債合計		64,262,847	
負債の部合計			79,163,022
<b>III. 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産額		8,397,790	
当期正味財産減少額		▲ 145,449	
正味財産の部合計			8,252,341
負債及び正味財産の部合計			87,415,363

# 平成29年度 活動計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金  
(単位:円)

科 目	金 額	
<b>I. 経常収益</b>		
1. 受取会費	120,000	
2. 受取寄附金	10,433,499	
3. 受取補助金等	18,982,259	
4. 事業収益	7,661,303	
5. その他収益	52,459	
経常収益計		37,249,520
<b>II. 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	13,615,998	
福利厚生費	778,297	
人件費計	14,394,295	
(2) その他経費		
会議費	106,508	
旅費交通費	3,579,022	
通信運搬費	182,908	
消耗品費	182,290	
資材費	43,953	
水光熱費	232,672	
地代家賃	2,291,328	
賃借料	668,840	
減価償却費	2,290,680	
保険料	74,798	
租税公課	4,400	
外注費	6,948,086	
支払手数料	33,616	
売上原価	217,669	
雑費	28,836	
その他経費計	16,885,606	
事業費計		31,279,901
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	3,854,768	
福利厚生費	120,415	
人件費計	3,975,183	
(2) その他経費		
会議費	96,113	
旅費交通費	170,597	
通信運搬費	155,610	
消耗品費	62,103	
地代家賃	360,000	
賃借料	217,980	
減価償却費	64,532	
租税公課	2,660	
外注費	836,826	
支払手数料	51,249	
雑費	102,214	
その他経費計	2,119,884	
管理費計		6,095,067
経常費用計		37,374,968
当期経常増減額		▲ 125,448
<b>III. 経常外収益</b>		
過年度損益修正益		50,000
税引前当期正味財産増減額		▲ 75,448
法人税、住民税及び事業税		70,001
当期正味財産増減額		▲ 145,449
前期繰越正味財産額		8,397,790
次期繰越正味財産額		8,252,341



# 平成30年度 貸借対照表

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金  
(単位:円)

科目・摘要	金額		
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	15,408,324		
未収金	5,401,434		
棚卸資産	1,135,621		
前払費用	234,144		
立替金	22,302		
仮払金	1,000,000		
流動資産合計		23,201,825	
2. 固定資産			
(有形固定資産)			
什器備品	94,503		
	94,503		
(投資その他の資産)			
保証金	600,000		
出資金	153,848		
預り基金特定資産	44,362,494		
	45,116,342		
固定資産合計		45,210,845	
<b>資産の部合計</b>			68,412,670
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	1,023,736		
短期借入金	8,600,000		
預り金	4,107,125		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		13,800,861	
2. 固定負債			
預り基金	44,362,494		
固定負債合計		44,362,494	
<b>負債の部合計</b>			58,163,355
<b>III. 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産額		8,252,341	
当期正味財産増加額		1,996,974	
<b>正味財産の部合計</b>			10,249,315
<b>負債及び正味財産の部合計</b>			68,412,670

# 平成30年度 活動計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金  
(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I. 経常収益</b>			
1. 受取会費	110,000		
2. 受取寄附金	10,335,927		
3. 受取補助金等	19,413,736		
4. 事業収益	4,334,835		
5. その他収益	76,965		
経常収益計			34,271,463
<b>II. 経常費用</b>			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	9,581,897		
福利厚生費	248,768		
人件費計	9,830,665		
(2) その他経費			
会議費	17,475		
旅費交通費	1,630,174		
通信運搬費	228,951		
消耗品費	152,710		
資材費	115,961		
水光熱費	226,243		
地代家賃	2,227,158		
賃借料	465,914		
減価償却費	572,670		
保険料	42,247		
租税公課	1,523,800		
外注費	9,980,216		
支払手数料	25,488		
売上原価	73,551		
雑費	66,207		
その他経費計	17,348,765		
事業費計		27,179,430	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	2,705,333		
福利厚生費	19,709		
人件費計	2,725,042		
(2) その他経費			
会議費	50,298		
旅費交通費	309,586		
通信運搬費	154,765		
消耗品費	68,324		
地代家賃	424,170		
賃借料	80,315		
減価償却費	82,723		
租税公課	2,205		
外注費	932,598		
支払手数料	41,864		
雑費	153,167		
その他経費計	2,300,015		
管理費計		5,025,057	
経常費用計			32,204,487
当期経常増減額			2,066,976
<b>III. 経常外収益</b>			
過年度損益修正益			11,328
<b>IV. 経常外費用</b>			
過年度損益修正損			11,330
税引前当期正味財産増減額			2,066,974
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			1,996,974
前期繰越正味財産額			8,252,341
次期繰越正味財産額			10,249,315

# 令和元年度 貸借対照表

令和2年3月31日現在

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金  
(単位:円)

科目・摘要	金額		
<b>I. 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	17,445,798		
未収金	4,844,898		
棚卸資産	1,117,846		
前払費用	238,480		
立替金	820		
仮払金	1,000,000		
流動資産合計		24,647,842	
2. 固定資産			
(有形固定資産)			
什器備品	47,253		
	47,253		
(投資その他の資産)			
保証金	600,000		
出資金	76,924		
預り基金特定資産	43,322,152		
	43,999,076		
固定資産合計		44,046,329	
資産の部合計			68,694,171
<b>II. 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	1,167,076		
短期借入金	8,600,000		
預り金	4,192,217		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		14,029,293	
2. 固定負債			
預り基金	43,322,152		
固定負債合計		43,322,152	
負債の部合計			57,351,445
<b>III. 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産額		10,249,315	
当期正味財産増加額		1,093,411	
正味財産の部合計			11,342,726
負債及び正味財産の部合計			68,694,171



# 令和元年度 活動計算書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金  
(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I. 経常収益</b>			
1. 受取会費	110,000		
2. 受取寄附金	10,091,665		
3. 受取補助金等	13,387,170		
4. 事業収益	3,620,614		
5. その他収益	70,525		
経常収益計			27,279,974
<b>II. 経常費用</b>			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	10,527,332		
福利厚生費	13,148		
人件費計	10,540,480		
(2) その他経費			
会議費	13,679		
旅費交通費	1,636,087		
通信運搬費	158,780		
消耗品費	381,260		
資材費	31,965		
水光熱費	221,800		
地代家賃	2,312,544		
賃借料	302,744		
保険料	53,175		
租税公課	3,600		
外注費	5,779,064		
支払手数料	24,953		
売上原価	17,215		
雑費	110,123		
その他経費計	11,046,989		
事業費計		21,587,469	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	2,505,820		
人件費計	2,505,820		
(2) その他経費			
会議費	42,524		
旅費交通費	270,603		
通信運搬費	117,448		
消耗品費	44,391		
地代家賃	360,000		
賃借料	24,920		
減価償却費	47,250		
租税公課	1,411		
外注費	841,926		
支払手数料	60,074		
雑費	140,727		
その他経費計	1,951,274		
管理費計		4,457,094	
経常費用計			26,044,563
当期経常増減額			1,235,411
<b>III. 経常外収益</b>			
過年度損益修正益			1,512
<b>IV. 経常外費用</b>			
過年度損益修正損			73,512
税引前当期正味財産増減額			1,163,411
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			1,093,411
前期繰越正味財産額			10,249,315
次期繰越正味財産額			11,342,726